

令和7年度住民アンケート分析結果報告

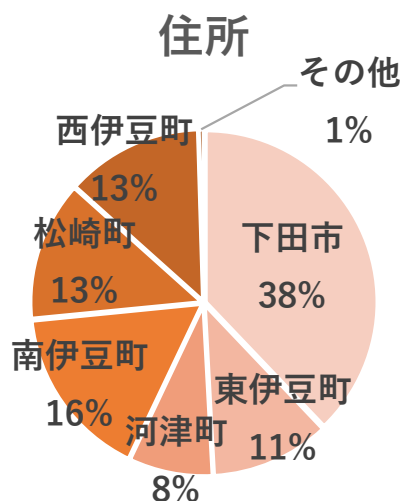
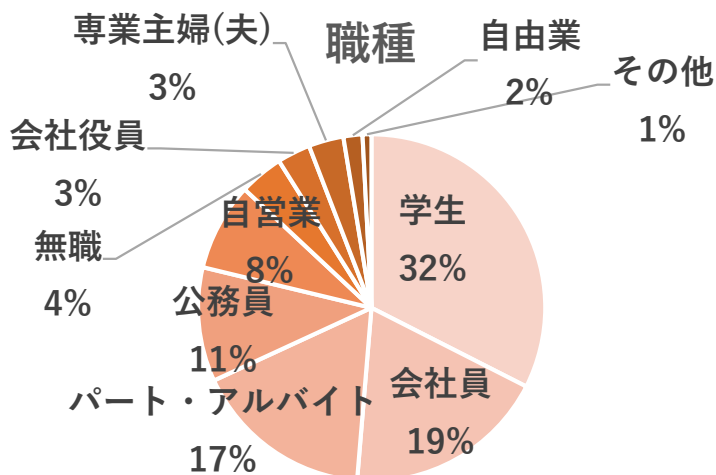
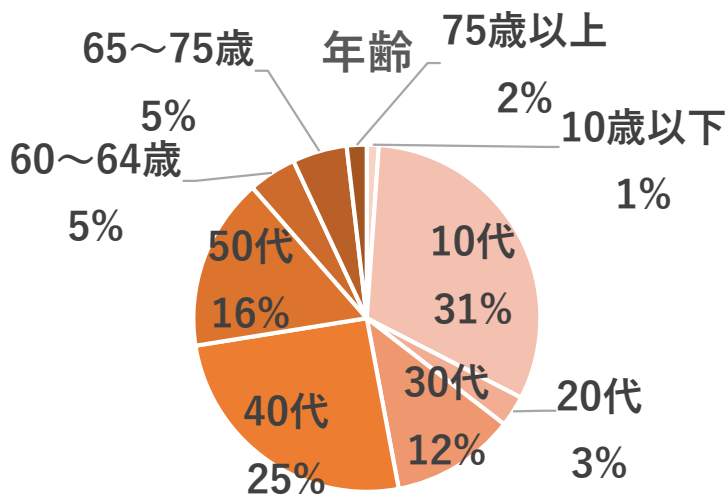
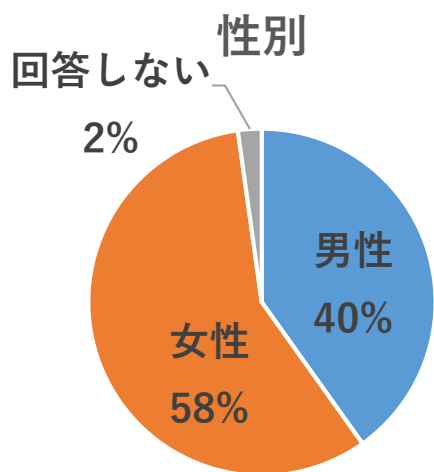
人口減少を踏まえた持続可能な地域づくりに向けて重要となる分野の将来推計データを取りまとめた「賀茂地域の未来予測」の公表に併せて、今後の行政運営の参考とするため、推計内容を踏まえた住民アンケートを実施。

対象	賀茂地域にお住まいの方
期間	令和7年10月1日～10月31日
調査方法	オンライン(Googleフォーム)
回答者数	1,449人

※年齢別分析では「10歳以下」は対象外とします（回答数が少数のため）

回答者居住地・年齢別内訳

市町\年齢	10歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～74歳	75歳以上	計
下田市	1	142	27	77	161	92	22	21	6	549
東伊豆町	0	46	6	19	48	27	3	10	4	163
河津町	1	52	1	13	29	11	6	2	0	115
南伊豆町	13	77	4	24	42	34	14	19	10	237
松崎町	1	65	1	21	54	31	11	5	2	191
西伊豆町	0	70	3	12	34	38	8	17	5	187
その他	0	4	0	2	0	0	1	0	0	7
計	16	456	42	168	368	233	65	74	27	1449

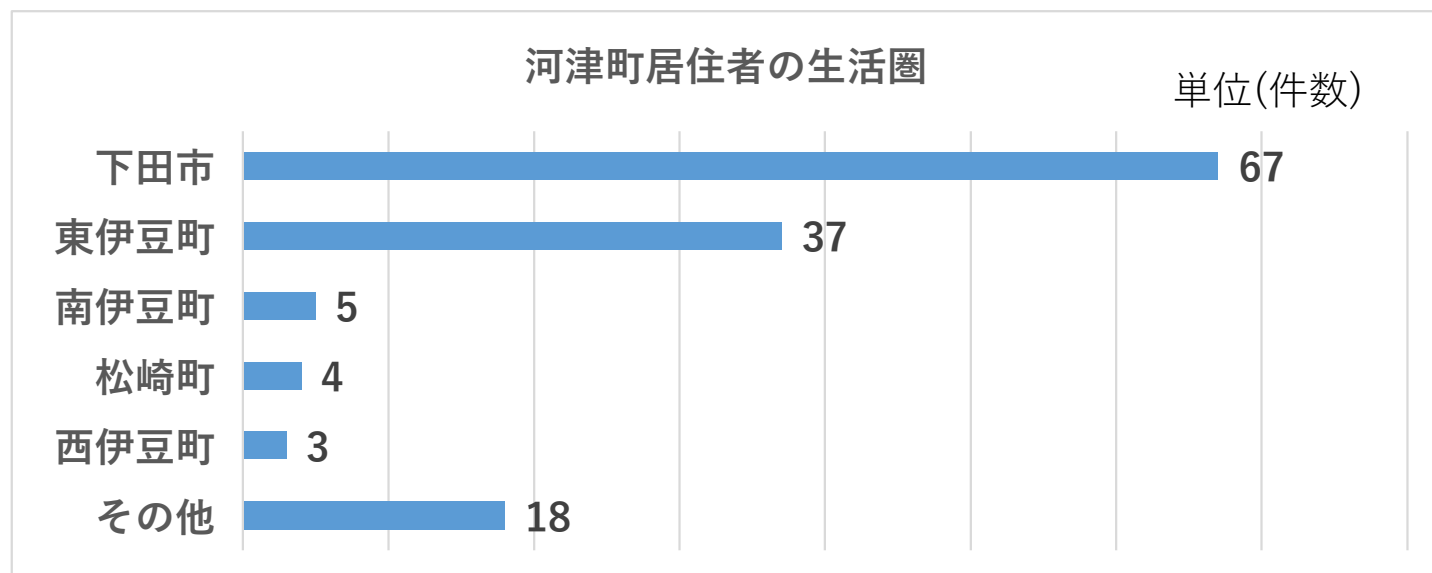
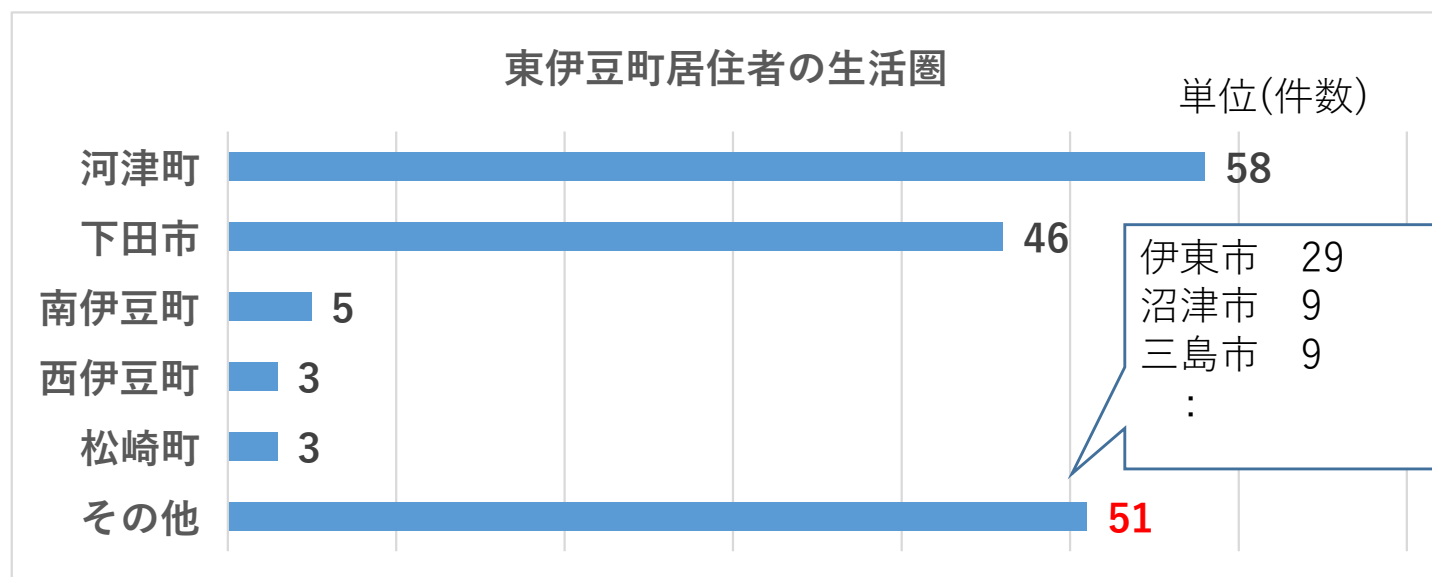
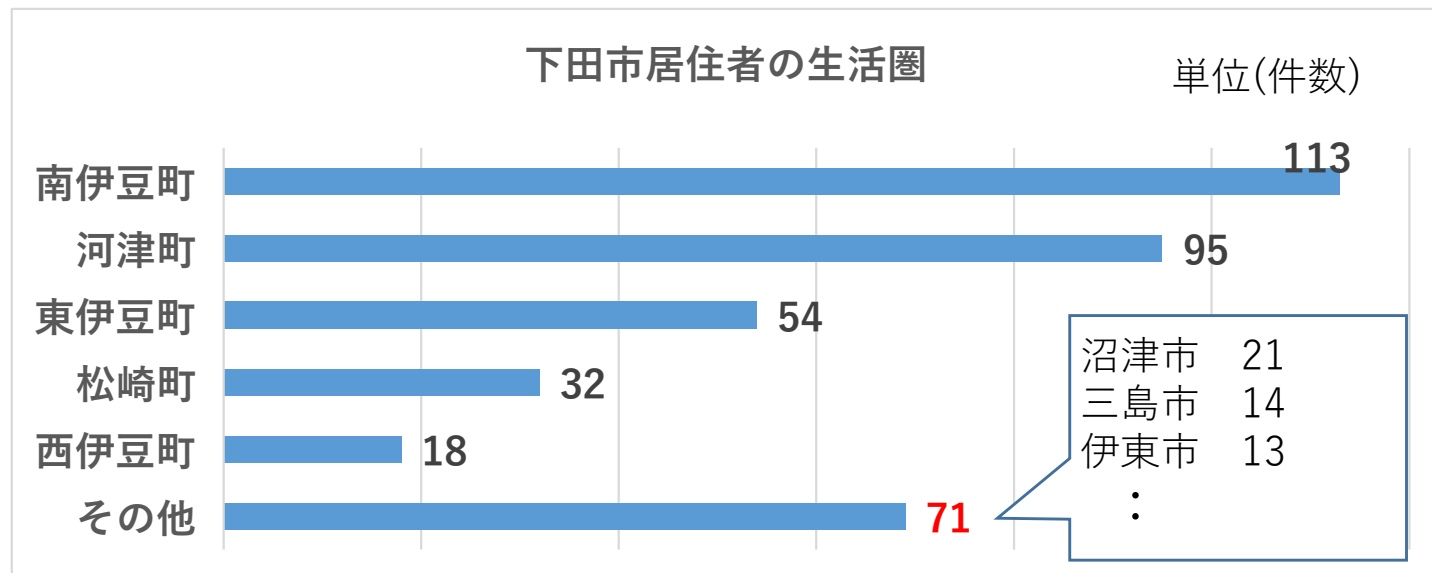


地域生活について

1-1 生活圏(日常に活動する地理的範囲)

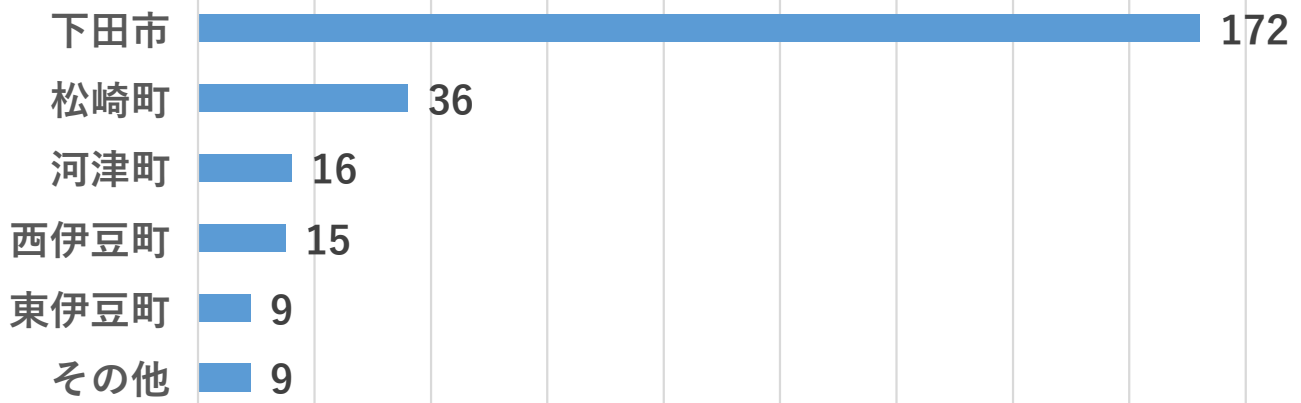
概要

- ★下田市・東伊豆町・西伊豆町では、賀茂地域外を生活圏とする回答が多い。
- ★隣接する市町を生活圏にしている回答が多い。
- ★全町で下田市を生活圏とする回答が一定数ある。



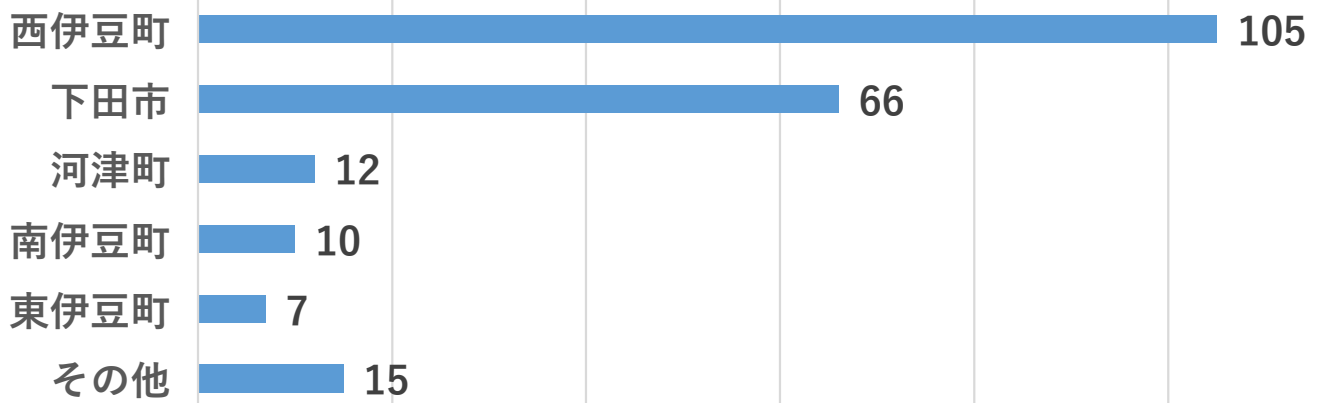
南伊豆居住者の生活圏

単位(件数)



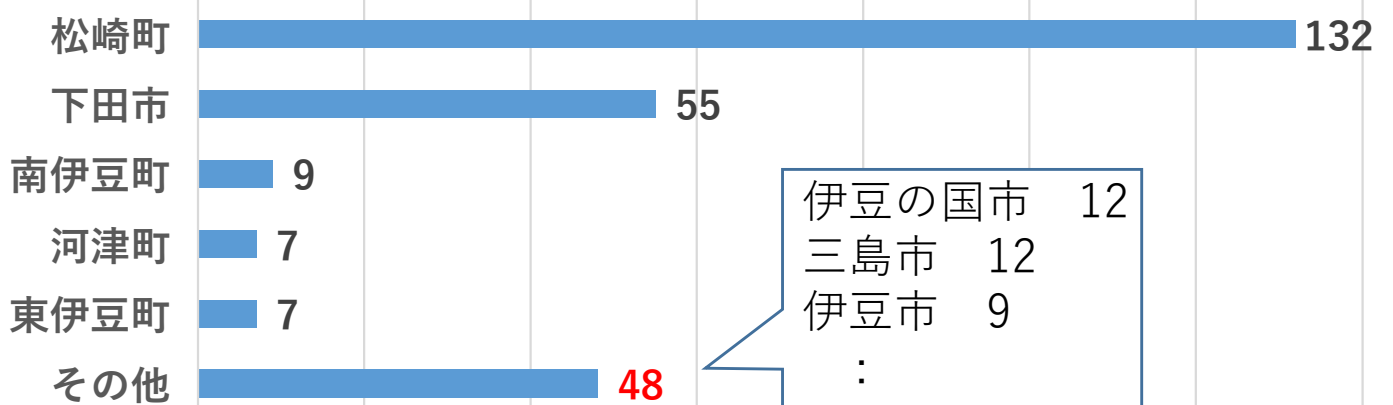
松崎町居住者の生活圏

単位(件数)



西伊豆町居住者の生活圏

単位(件数)



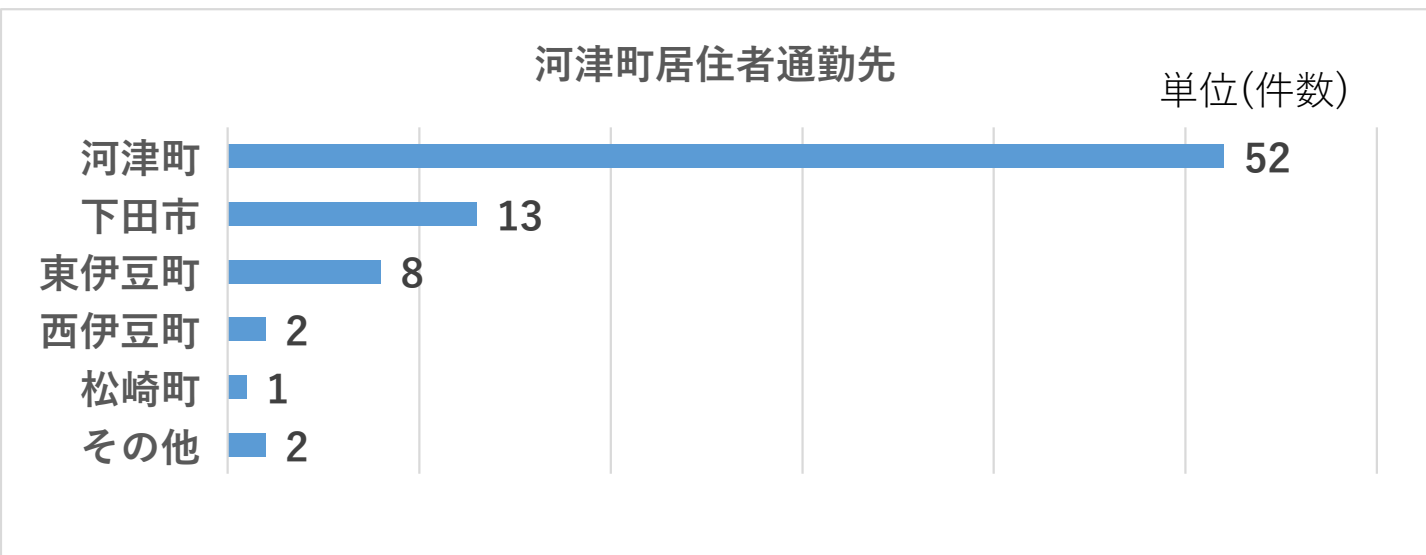
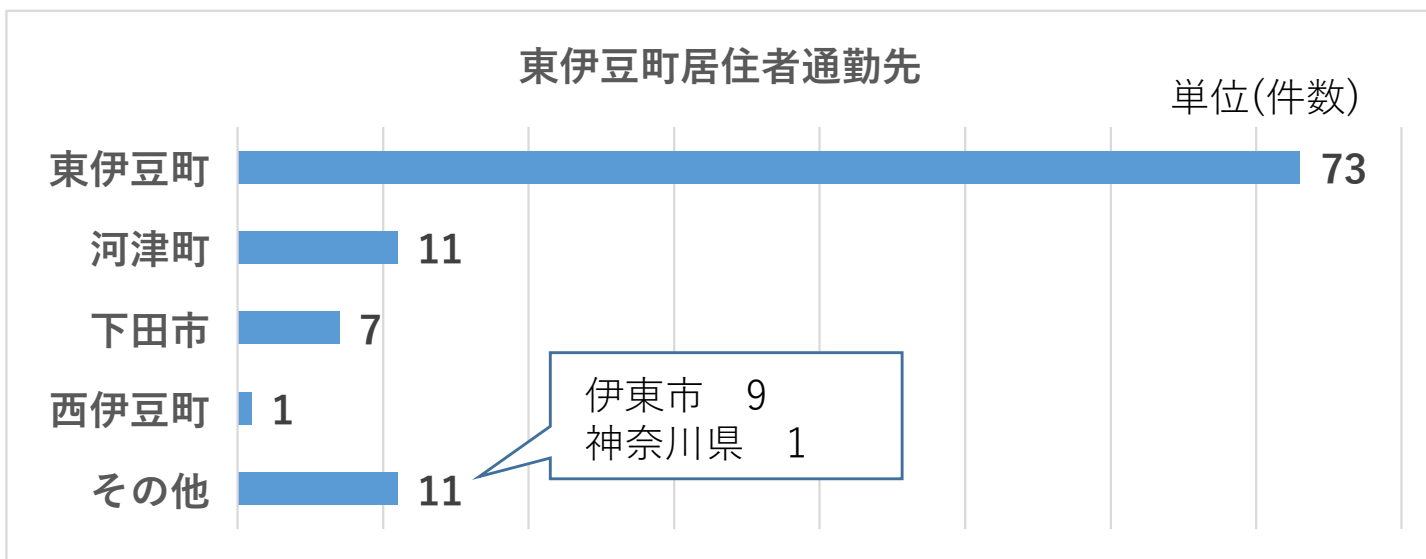
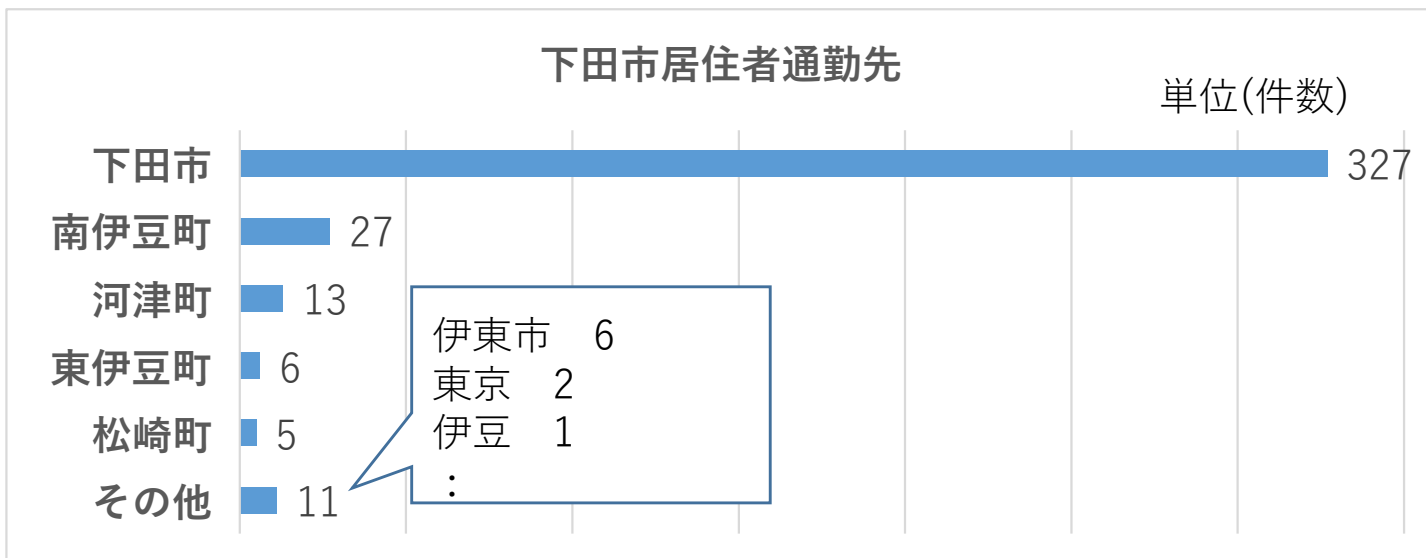
1-2-1 通勤先

概要

★隣接する市町を通勤先とする回答が多い。

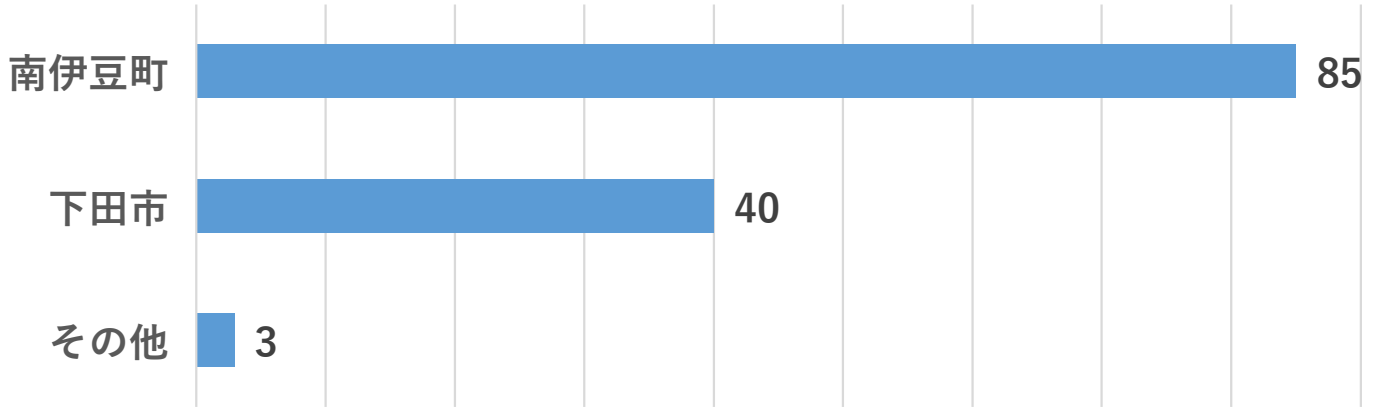
★河津町、南伊豆町⇔下田市間が多く、東伊豆町⇔河津町、松崎町⇔西伊豆町間もやや多い。

★東伊豆町は伊東市間を通勤する回答も多い。



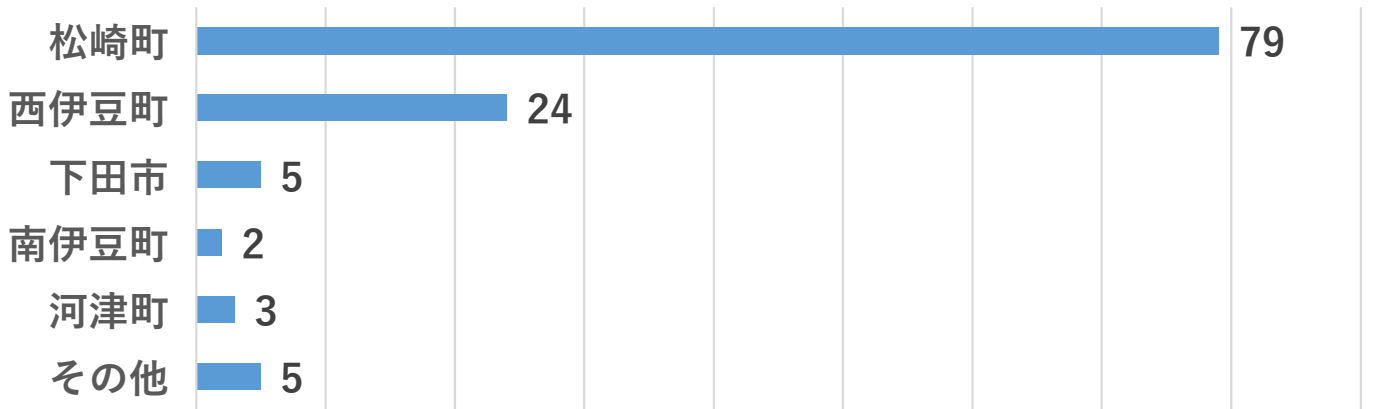
南伊豆町居住者通勤先

単位(件数)



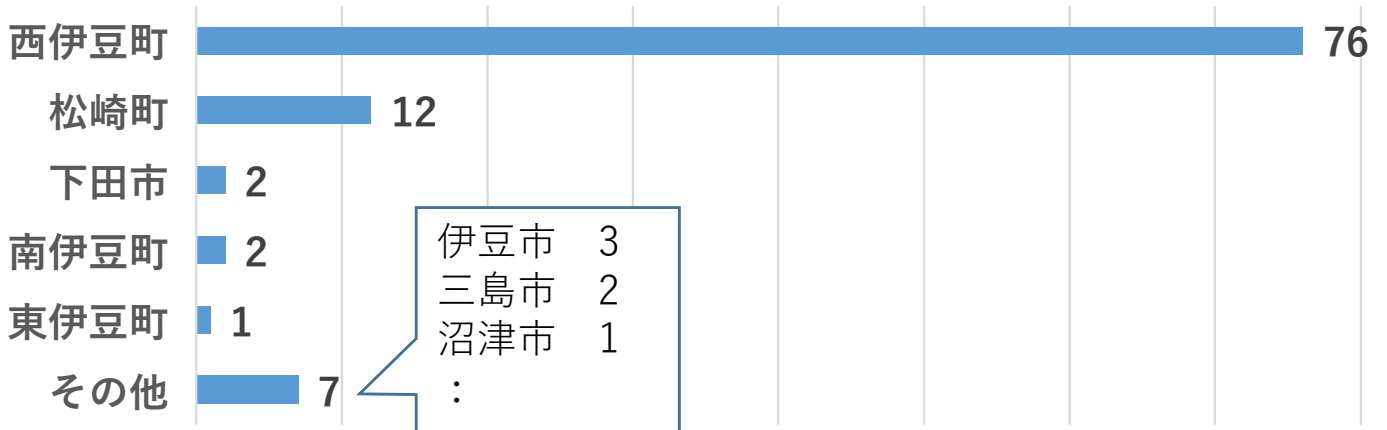
松崎町居住者通勤先

単位(件数)



西伊豆町居住者通勤先

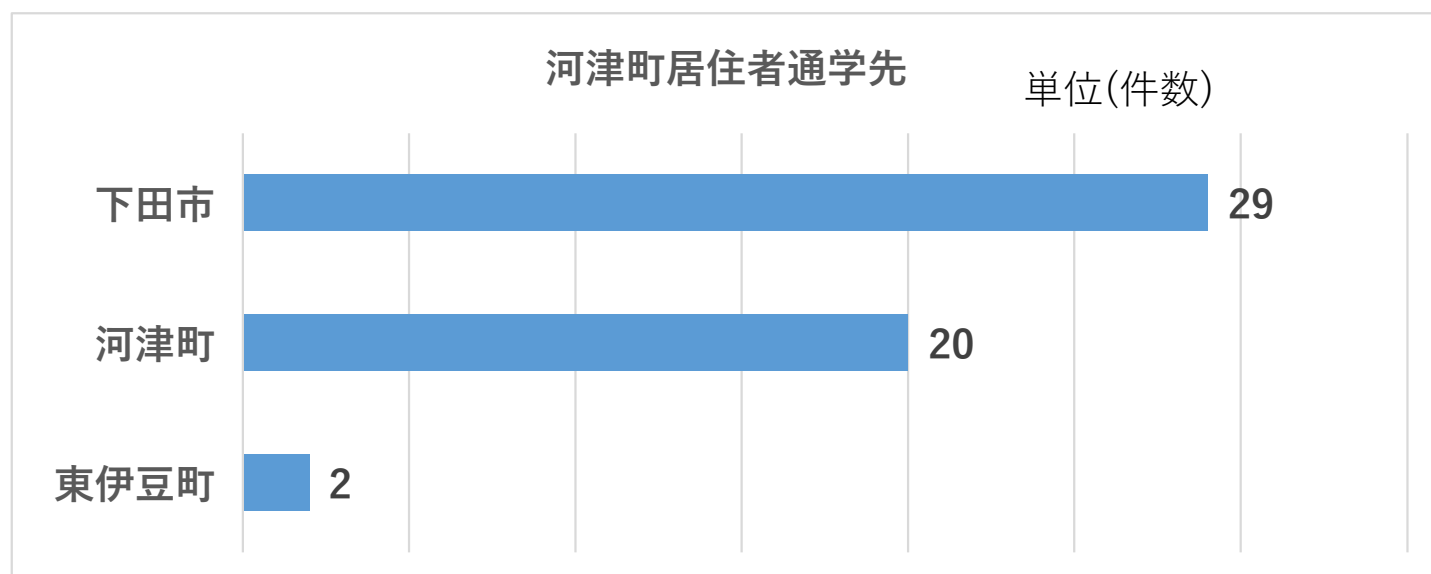
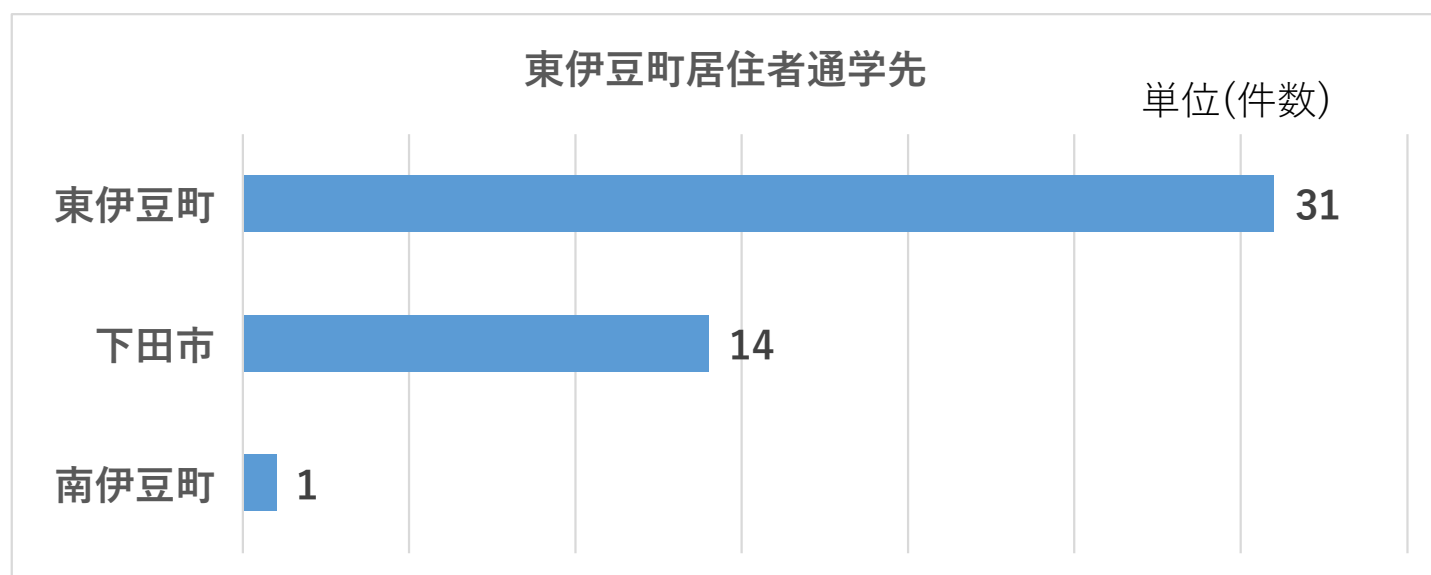
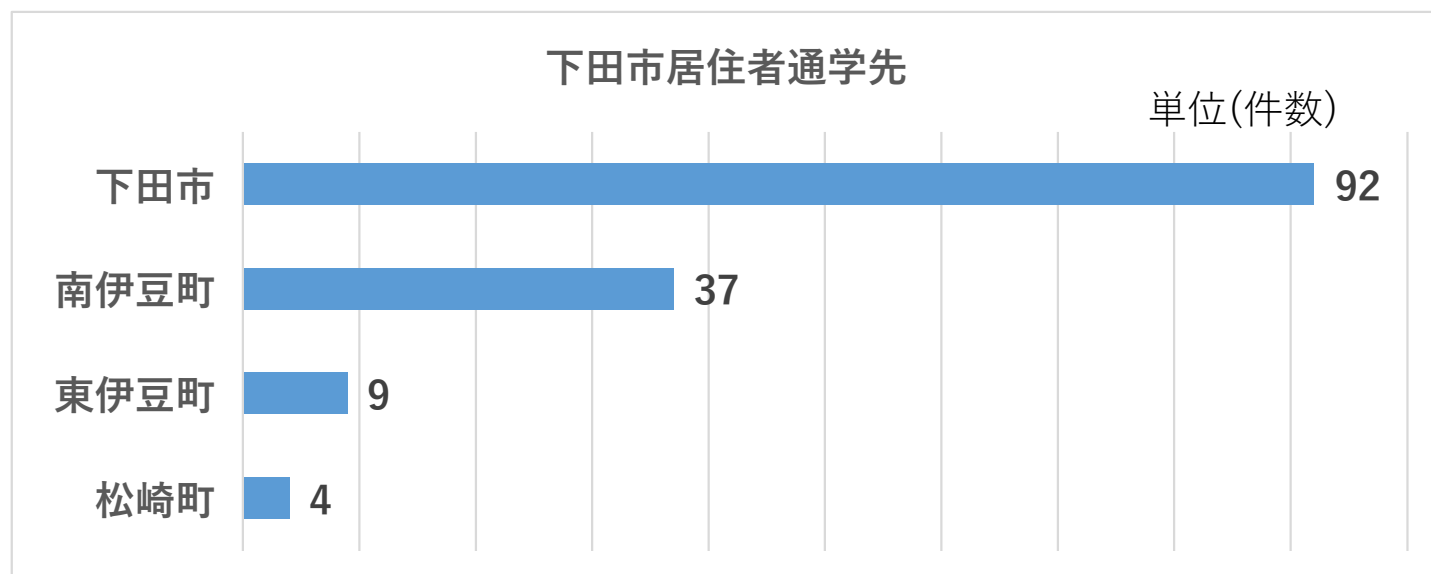
単位(件数)



1-2-2 通学先

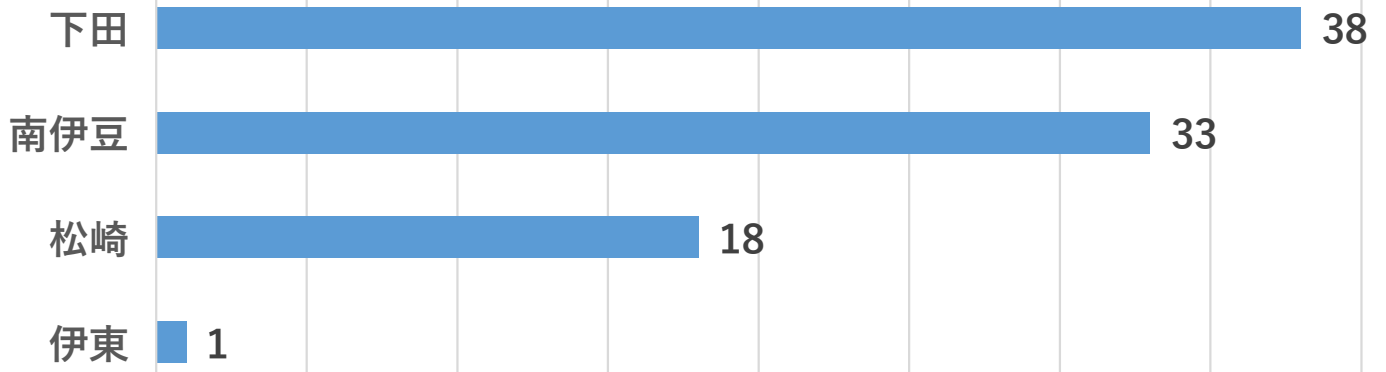
概要

★全町で下田市を通学先とする回答が一定数ある。



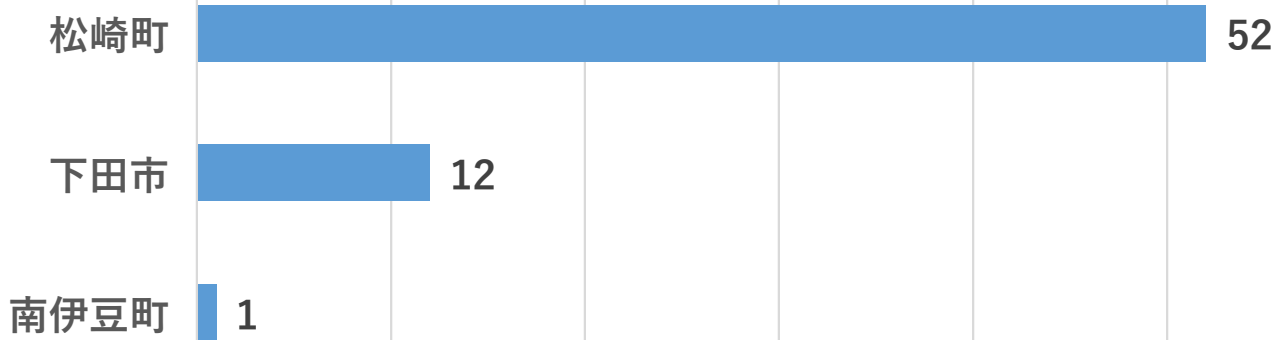
南伊豆町居住者通学先

单位(件数)



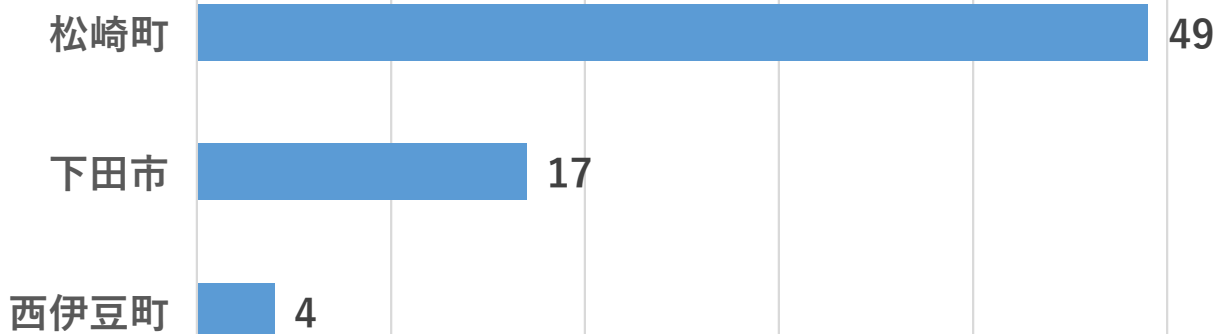
松崎町居住者通学先

单位(件数)



西伊豆町居住者通学先

单位(件数)



1-3通勤(通学)時の移動手段（複数回答）

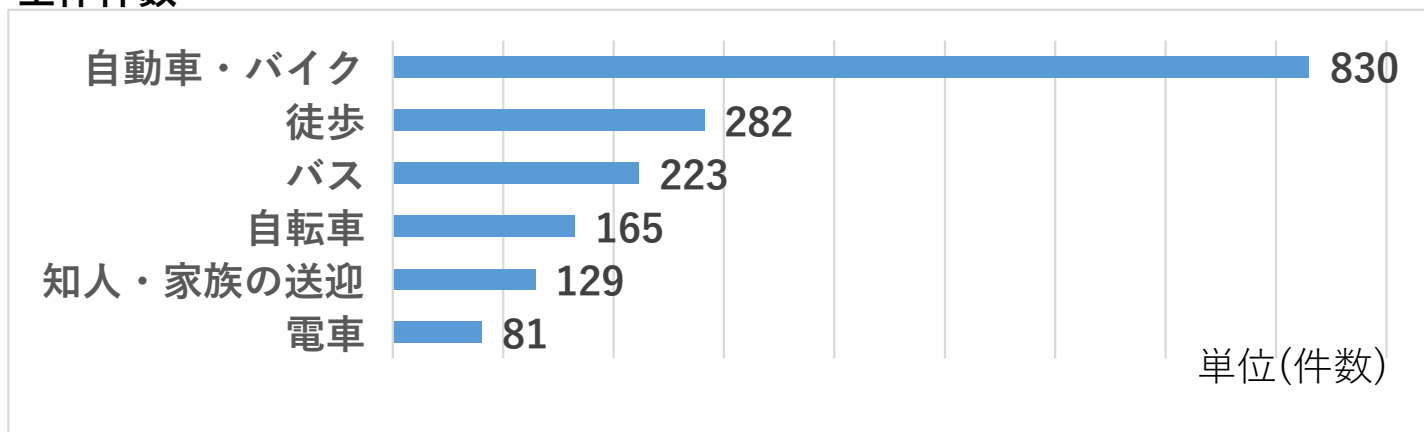
概要

★全体的には、「自動車・バイク」の利用が最多。

★「バス」、「電車」のほぼ全てが10代の学生による。

★市町別では「バス」の利用の割合としては南伊豆町・西伊豆町が28%、26%と他市町と比較して高い。

全体件数



年齢別件数

移動手段\年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～74歳	75歳以上
自動車・バイク	90	22	135	310	172	44	41	15
徒歩	162	16	16	35	35	4	6	1
バス	193	2	4	4	5	3	1	2
自転車	112	6	13	15	14	1	1	0
知人・家族の送迎	124	0	0	1	0	3	1	0
電車	63	0	4	4	6	1	2	0

市町別バス利用件数

市町	バス利用件数	割合
下田市	66	12.0%
東伊豆町	9	5.5%
河津町	7	6.1%
南伊豆町	67	28.3%
松崎町	21	11.0%
西伊豆町	50	26.7%

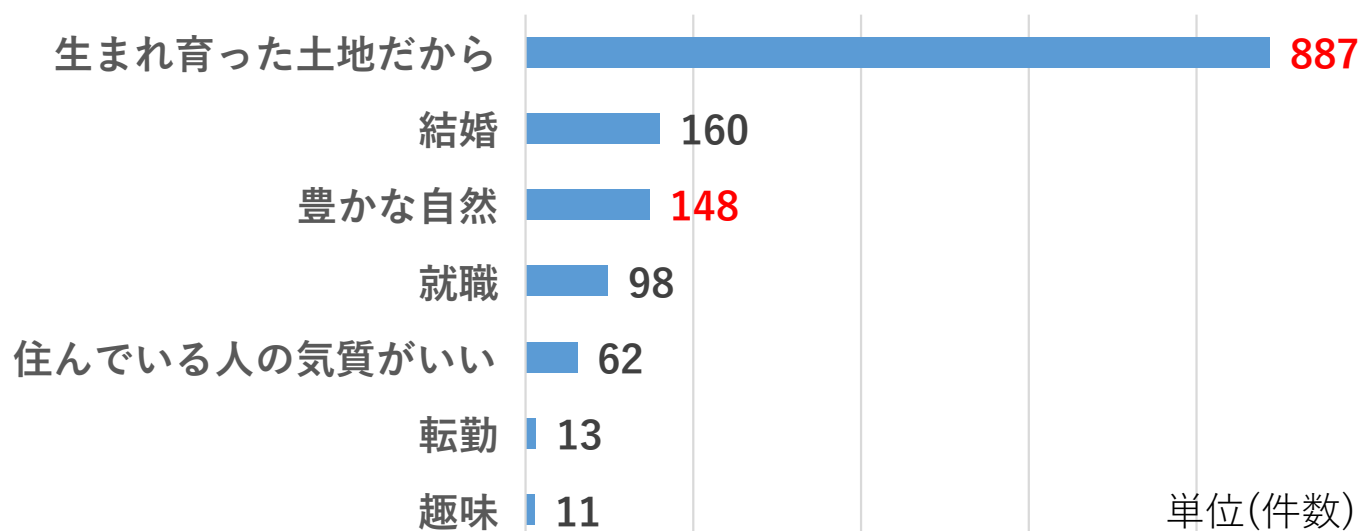
1-4賀茂地域に住んでいる理由(複数回答)

概要

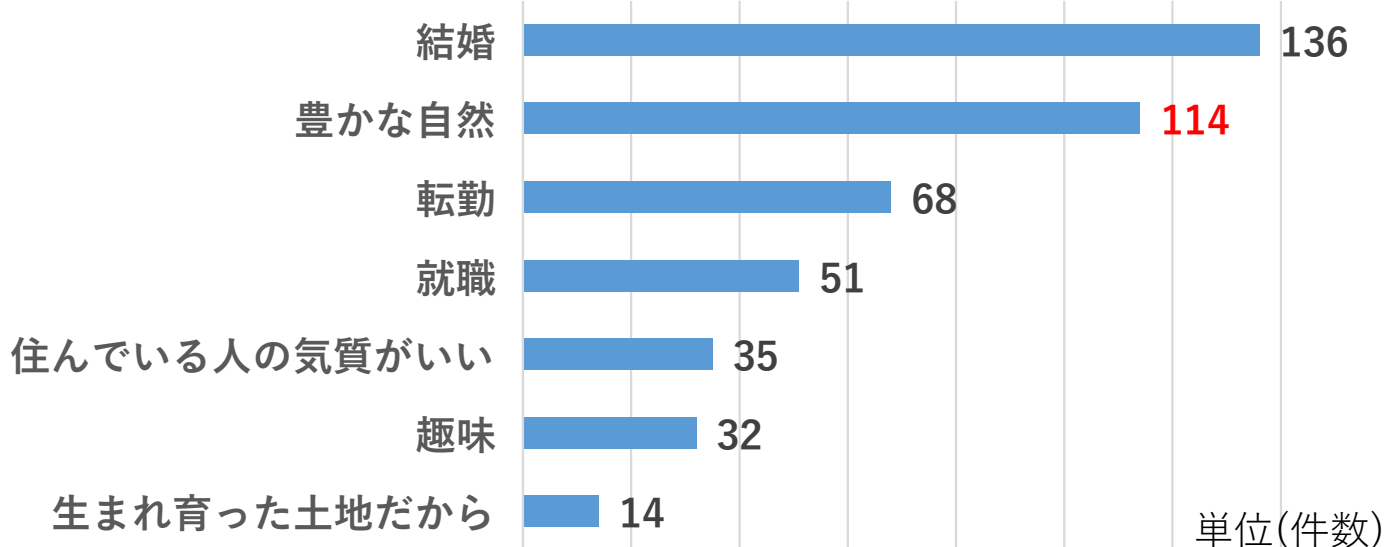
★賀茂地域出身者(1051名)については、「生まれ育った土地だから」への回答が8割を超える。

★地域外出身者(398名)は、結婚に次いで「豊かな自然」を理由とする回答が多く、令和4年度住民アンケート・令和6年度住民アンケートにおいても賀茂地域が好きな理由について「豊かな自然」が多数を占めており、自然が地域の魅力であることが地域内外の共通認識であることが推測される。

賀茂地域に住んでいる理由(賀茂地域出身)



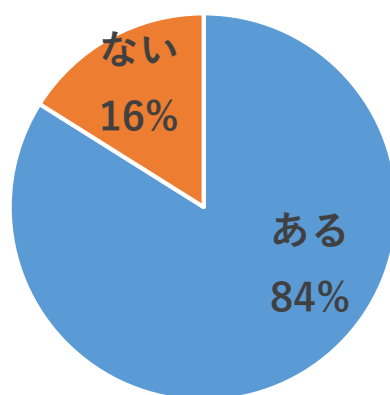
賀茂地域に住んでいる理由(出身地が賀茂地域外)



1-5ご近所とのお付き合いはありますか

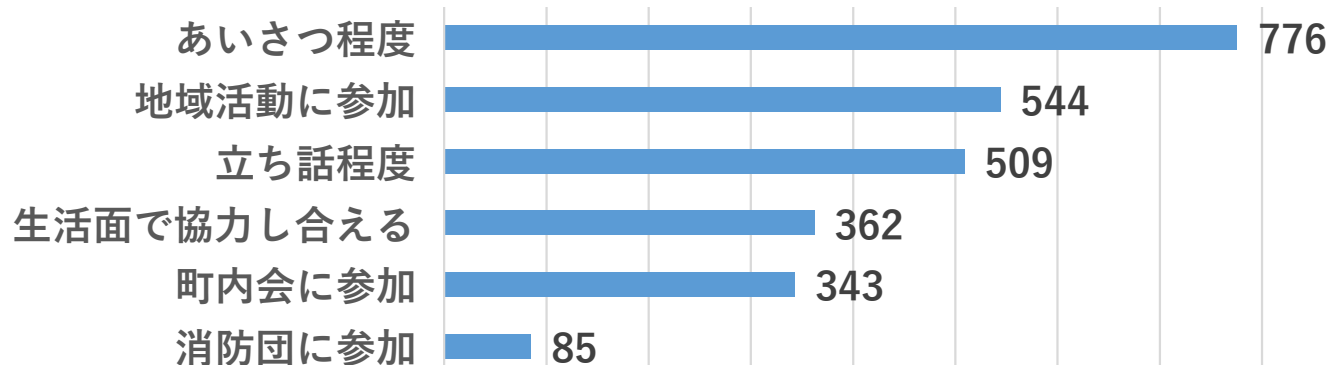
概要

- ★40代以上の半数以上が「地域活動に参加」。
- ★20代のサンプル数が少ないものの、10代・20代の若い世代の地域活動参加率は低い。
- ★10代～50代はあいさつ程度が多い反面それ以外の関わり方が少ない傾向。生活・防災面でより協力が必要となる中で、今後は10代～50代の積極的な地域への関わりを促す取組・関係作りが求められる。
- ★20代、30代、50代については、近所付き合いがないという割合が高い。
- ★20代はサンプル数は少ないものの、62%と半数以上が地域との関わりが少なく、今回、「ない」と回答した20代の大半が賀茂地域外出身である。移住した社会人世代に対して地域と関わる機会が求められる。
- ★60代以上はあいさつ程度が50代以下と比較して割合が下がる一方で生活面で協力、町内会に参加などの関わり方が増加する傾向。



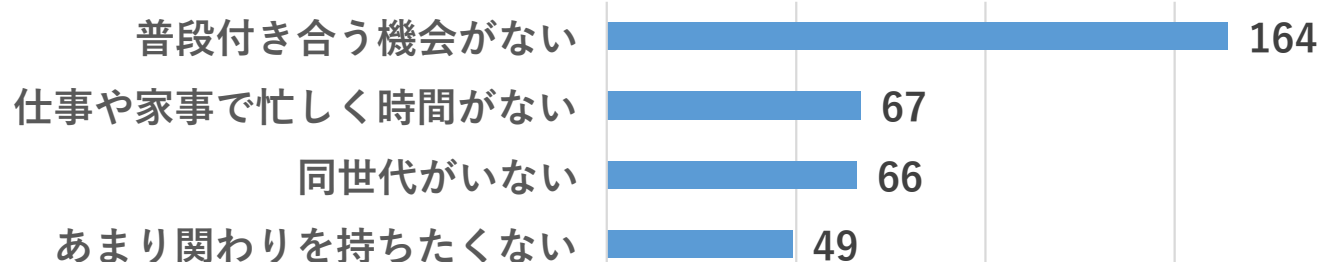
「ある」と回答した方の関わり方(複数回答)

単位(件数)



ご近所との付き合い「ない」理由(複数回答)

単位(件数)



年齢別「ある」と回答した方のご近所との関わり方

年齢	「ある」回答数	あいさつ～		地域活動～		立ち話～		生活面～		町内会～		消防団～	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
10代	383	327	85%	113	30%	39	10%	22	6%	13	3%	7	2%
20代	16	10	63%	3	19%	1	6%	4	25%	2	13%	2	13%
30代	134	98	73%	63	47%	23	17%	11	8%	16	12%	18	13%
40代	334	194	58%	173	52%	47	14%	40	12%	53	16%	45	13%
50代	185	106	57%	102	55%	32	17%	28	15%	51	28%	10	5%
60～64歳	58	21	36%	32	55%	9	16%	17	29%	19	33%	1	2%
65～75歳	72	17	24%	44	61%	9	13%	30	42%	27	38%	2	3%
75歳以上	23	4	17%	14	61%	4	17%	14	61%	7	30%	0	0%

年齢別「ない」と回答した方の件数

年齢	総回答者数	件数	割合
10代	456	73	16%
20代	42	26	62%
30代	168	34	20%
40代	368	34	9%
50代	233	48	21%
60～64歳	65	7	11%
65～75歳	74	2	3%
75歳以上	27	4	15%

年齢別「ない」と回答した方の理由

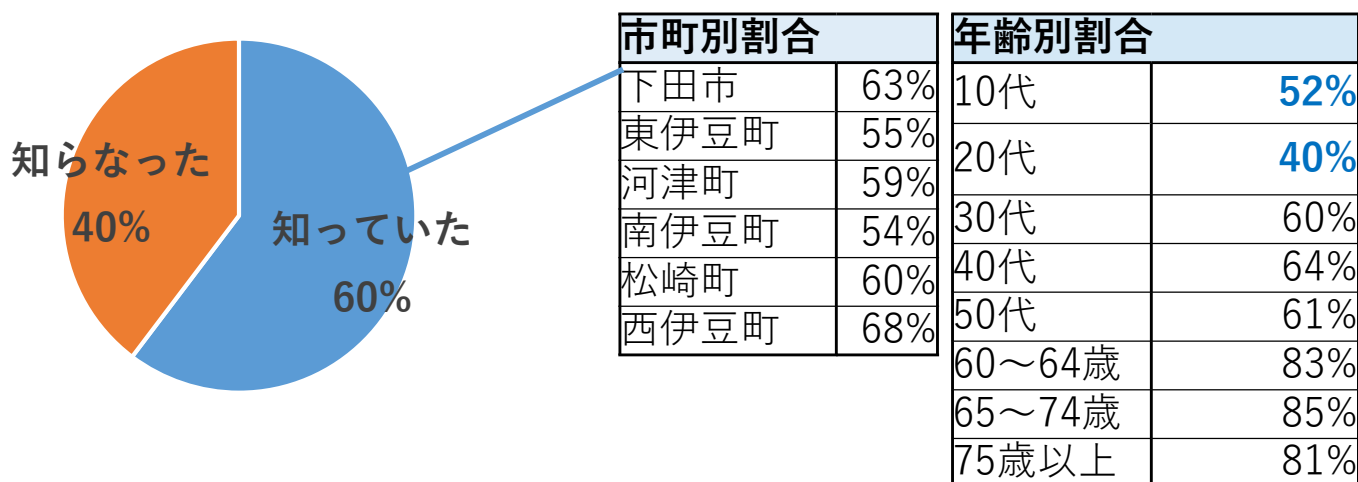
年齢	普段付き合う機会がない	仕事や家事で忙しい	同世代がいない	あまり関わりを持ちたくない
10代	36	0	12	7
20代	14	4	7	5
30代	14	6	9	10
40代	14	6	4	2
50代	31	6	5	8
60～64歳	5	2	2	10
65～75歳	1	0	0	1
75歳以上	2	0	0	2

賀茂地域の人口減少について

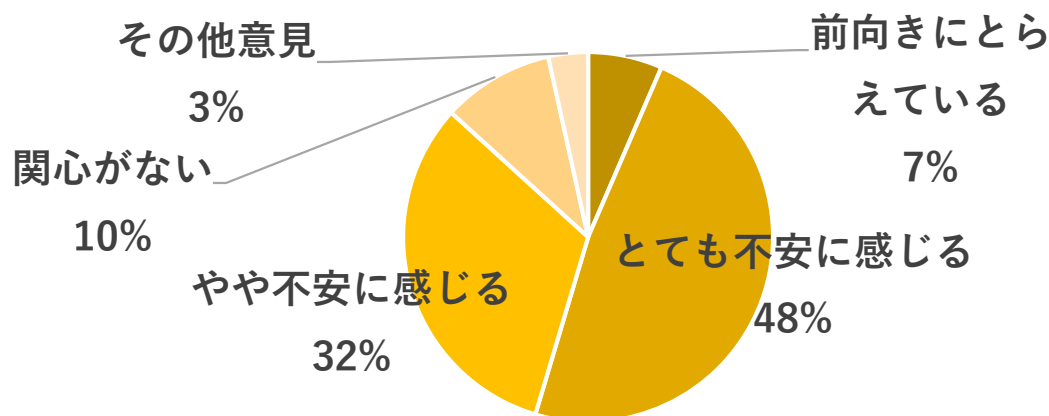
2-1 2050年には賀茂地域の人口は今の約半分になると推計されます。このことについてあなたは知っていましたか

概要

- ★全体で6割の回答者が賀茂地域の人口推計について認識しており、市町別でも各市町半数以上が認識している。年齢別では若い世代の認識が若干低い。
- ★年齢別では賀茂地域で今後も生活を送る可能性の高い40・50代の不安度が高まっていることが見て取れる。
- ★移住者の受け入れには全体の7割が賛成。反対は少ないものの「どちらともいえない」が25%を占める。地域のルールや文化に理解のある移住者を望む傾向があると推測される。



2-2 この推計について、どのように感じますか

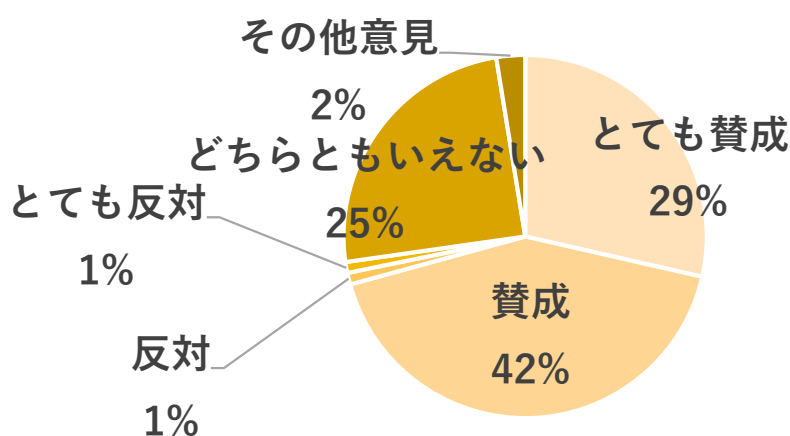


年齢	とても不安	やや不安	関心がない	前向き
10代	156 (34%)	199 (44%)	81 (18%)	17 (4%)
20代	17 (40%)	16 (38%)	7 (17%)	2 (5%)
30代	81 (48%)	47 (28%)	20 (12%)	11 (7%)
40代	221 (60%)	98 (27%)	14 (4%)	20 (5%)
50代	132 (57%)	56 (24%)	14 (6%)	19 (8%)
60～64歳	34 (52%)	17 (26%)	4 (6%)	6 (9%)
65～74歳	35 (47%)	20 (27%)	1 (1%)	14 (19%)
75歳以上	14 (52%)	7 (26%)	0 (0%)	3 (11%)

その他意見抜粋

- ・「しょうがない」「やむを得ない」などの意見多数。
- ・過疎化は全国的な問題なので抗わずに受け入れ持続可能な地域体制を作るしかない
- ・もっと減らと思っていたので、2050年までで逆に半分も残るのかと驚きました。
- ・推計よりも早いペースで人口半減が起こると思っている など

2-3 移住者を地域に受け入れることに対してどのように感じますか。



市町別割合 (とても賛成 + 賛成)	
下田市	73%
東伊豆町	67%
河津町	75%
南伊豆町	62%
松崎町	70%
西伊豆町	76%

その他意見抜粋

- ・移住者を地域に受け入れる前に勤め先がない
- ・移住者を一時的に受け入れても持続的でないと人口減少の根本的な解決にはならない。
- ・地域のルールを守れる人なら賛成
- ・日本人なら賛成（外国人増加の治安の悪化が心配だから） など

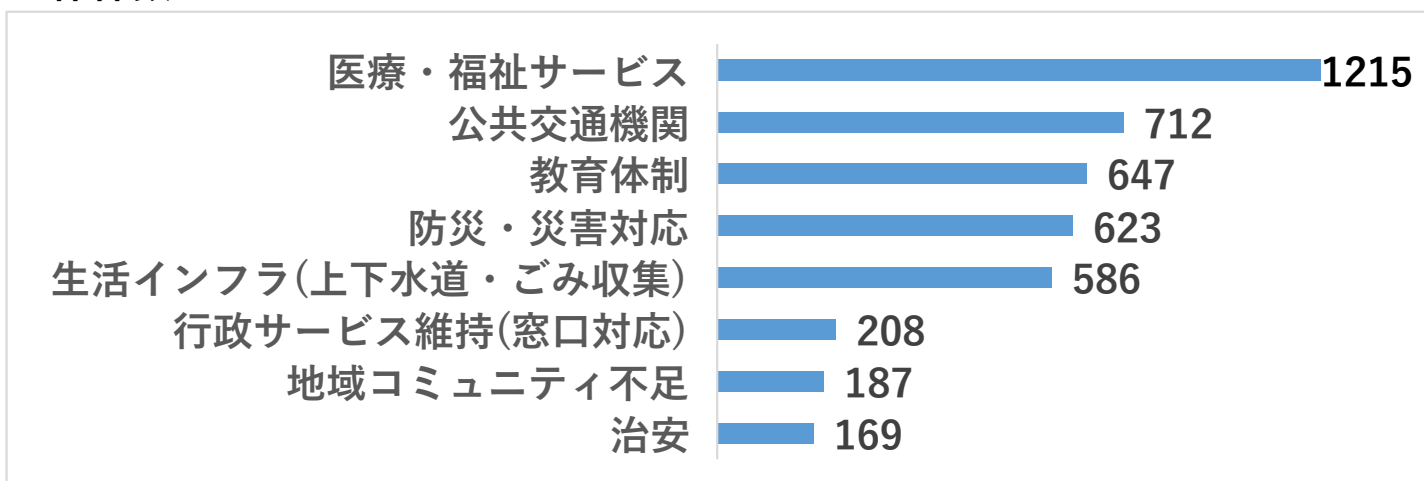
3-1 人口減少に伴い、様々な分野での課題が推測されます。

次のうち優先して解決すべきと考えるものはどれですか(3つ選択)

概要

- ★全体・各年齢別で「医療・福祉サービス」は、一番多く回答された。
- ★全体で2番目の「公共交通機関」は、自動車等の交通手段を持たない10代による選択が多い。
- ★市町別では河津町、南伊豆町、西伊豆町は公共交通機関への関心が高く、逆に「教育体制」への関心が相対的に低い。
- ★30代・40代の子育て世代は「教育体制」への関心が高い。
- ★50代以上になると「教育体制」から「公共交通機関」「生活インフラ」への関心が強まる傾向。

全体件数



市町別優先すべき課題

単位(件数)

課題\市町	下田市	東伊豆町	河津町	南伊豆町	松崎町	西伊豆町
医療・福祉	①469	①129	①97	①198	①164	②109
公共交通機関	③254	③77	②55	②126	③86	①153
教育体制	②264	②81	49	84	②93	73
防災・災害対応	240	61	③54	96	85	22
生活インフラ	224	66	46	③103	77	31
行政サービス	76	26	14	35	31	23
地域コミュニティ	56	19	13	46	21	③83
治安	61	30	17	23	16	67

年齢別優先すべき課題

単位(件数)

課題\年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
医療・福祉	①349	①29	①140	①328	①207	①152
公共交通機関	②285	0	67	③150	②114	③67
教育体制	148	17	②107	②218	97	54
防災・災害対応	③215	③19	③81	147	87	66
生活インフラ	176	②20	62	143	③99	②76
行政サービス	56	7	23	52	35	33
地域コミュニティ	82	5	9	28	27	32
治安	57	7	15	38	33	18

3-2 選択の理由があれば教えてください(自由記述)

医療福祉サービス(意見の抜粋)

子育てに関係する理由(産婦人科がない・小児科の不足など)

- ・医療に関しては東伊豆町の小児科が少ないので充実してもらいたい
【女性10代学生東伊豆町】
- ・子どもの緊急時、頼りになる医師が近くにいない。分娩施設がない。子育て支援が他の市町に比べてなさすぎる。
【女性20代会社員下田市】

サービスの低下によるさらなる人口減少への懸念

- ・医療関係のものやインフラ整備はそこにいる市民や町民にとってなくてはならないもので、これらが不十分だとこの賀茂郡から段々人が減っていってしまうことが予想されるから。
【男性10代学生松崎町】
- ・病院の体制や介護、子供の教育は下田で暮らしていく上で切っても切り離せないもの。移住者を受け入れるにしても、しっかりとした体制が整っていないと移住者が来ずらいと思うから。(女性30代自営業下田市)
- ・整わないことでさらなる人口減少の悪循環に陥ってしまうため
【女性60～64歳自由業松崎町】

加速する高齢化に対してのサービスの充実

- ・高齢者が多いから医療サービスがなくなると移動の可否で格差が生まれるため
【女性10代学生下田市】
- ・高齢になるにつれて、身体が自由がきかなることで、日常生活がままならなくなる不安があります。老後に独りでも様々な行政支援を手厚く受けられるようなシステムを整えていただければ、安心して暮らし続けられますので、ぜひお願いします。
【女性50代会社員西伊豆町】

現状のサービス不足への不安・充実への要望

- ・地域医療が脆弱。重病になると順天堂まで行かないと十分な治療を受けられない。休日医療などの体制もしっかりしていない。
【40代会社員河津町】
- ・車の運転ができなくなる人が増えると思う。自宅にいて簡単に病院の診察や買い出しなどができるシステムがあれば。
【女性40代公務員松崎町】
- ・医療機関が充実してないので安心して暮らせない。
【男性50歳会社員下田市】

※その他、生活する上で必要不可欠な要素であるなどの意見あり

公共交通機関(意見の抜粋)

利便性の向上(電車・バスの本数・料金・夜間の交通手段)

- ・ 中学の時にバスの本数少なくて部活が終わったあと1時間待たないといけなくて大変で不便でした。 【女性10代学生南伊豆町】
- ・ 観光スポットがあるのに公共交通機関の数や値段が高く行きにくいから 【男性10代学生下田市】
- ・ 土日祝日学生が長期休みになるとバスがほぼない。毎日日中の時間帯のバス欲しい 【女性20代会社員河津町】
- ・ 車を所有していますがバスにたまに乗ると、本数が少なくて不便。遠出や、呑みにいった帰りにバスで帰りたくても帰れません。タクシーは割高。本数減ったし。 【女性40代会社員下田市】
- ・ この町は車が無いと生活出来ないにもかかわらず公共の交通手段がバスしか無い上に料金が高い。タクシーも一社(二社)しかない上に夜は早い時間で終わってしまう。 【男性50代会社員西伊豆町】

高齢者・自動車免許所持していない人の移動手段の確保

- ・ 病院や買い物で困難で移動の制限がされる。公共交通機関は高齢者だけでなく子供にとっても大切。 【女性10代学生南伊豆町】
- ・ 公共交通機関の利便性を向上させ、高齢者が免許返納を安心して行える環境整備と子供達が安全に通学出来る地域にして欲しい。 【男性30代会社員下田市】
- ・ 後期高齢者なので移動手段が心配 【女性75歳以上無職西伊豆町】

移住者や観光客増減の要因

- ・ 観光業の人が多いのでインフラや公共交通機関を発達させ観光客を呼び込みやすくするため。 【男性10代学生南伊豆町】
- ・ 松崎に観光客が少ないのは下田と違い電車などの便利な交通機関がないから 【男性10代学生松崎町】
- ・ 最近の若い方は車離れしているため、電車を通さなければ観光客が来れない。若い方が出ていく一方だと思料される。 【男性50代パート・アルバイト南伊豆町】

※その他、生活する上で必要不可欠な要素であるなどの意見あり

教育体制(意見の抜粋)

教育環境の整備(進学先の選択肢、教育の質・環境の充実等)

- ・ 進学のための教育環境が不足している 【男性10代学生南伊豆町】
- ・ 塾がすくない。不登校の子供が通えるフリースクールがない。 【女性30代専業主婦河津町】
- ・ 教育は未来への投資であるが、現状のままで地域の人口減少が進めば、必然的に学校教育の質も低下すると考えられるため。 【男性40代公務員松崎町】
- ・ 学校が減少し、高校の選択肢が減るから。 【女性40代公務員下田市】
- ・ 身近な問題として、部活動の選択肢が少ないこと、学力の低下(競い合うことが減る)、バスや電車の本数の減少で困っています。 中学校の下校時間に合ったバスがない。具体的には16時頃の次が17時半。一時間半も空くため、バスで帰れず迎えが必要で困っています。 【女性40代パート・アルバイト東伊豆町】
- ・ 高校卒業後の進路の選択肢が無い。大学の一部の学部でも誘致出来ないかと思う。 【男性60~64歳会社員下田市】
- ・ 子育て支援の最大は教育環境の多様化・高度化であると考えます。 【男性65~74歳市議会議員下田市】

人口増減の要因(子育て世代・学生の都市部への流出など)

- ・ 学生など若者に向けた生活の需要(下田を活かした学科のある大学や大型商業施設)があれば外に出ていく人が減り、移住民を増やせて持続可能な街になると思う 【女性10代学生下田市】
- ・ 次世代の教育体制が整っていなければ、若い世代の移住者は望めないと思う為。 【男性30代会社員松崎町】
- ・ 賀茂地区に資格取得学校、学びの場が少ないので子供の都市部流出が加速していると思います。 【男性40代会社役員下田市】
- ・ 小・中学校の新設が見送られたが、防災観点についてもしっかりとした教育施設無しに、今から子供を産んだり、子育てしている人が移住してくるだろうか? 【女性40代パート・アルバイト西伊豆町】
- ・ 大学がない為、子供たちが外に出てしまう。 外から若者が入ってこない。 【男性50代自営業南伊豆町】
- ・ 自然囲まれた素晴らしい環境と綺麗事を言っても、教育環境が整っていないと学校へ進学する時に都市部へ帰って行く人を何人も見ているので、若い人の為にも教育はしっかりやって欲しい。 【男性50代会社役員西伊豆町】

防災・災害対応(意見の抜粋)

高齢者への支援

- ・ 高齢化が進むにつれて必要性がより強くなっていくと思ったから。 【女性10代学生南伊豆町】
- ・ 高齢者が多い下田市なので、医療や介護、地域の防災対策等に力を入れたほうが良いと思います。 【女性40代会社員下田市】
- ・ 防災・災害対応も、自身が居住する地域は土砂災害警戒地域になっており、先日の避難訓練では、高齢者の多くが避難に時間がかかっている様子がありました。ある程度は自治体で面倒をみていただかないと、犠牲者が増えてしまう可能性があります。 【女性60～64歳専業主婦（夫）松崎町】

人手不足による災害体制維持への懸念

- ・ 災害時のマンパワー不足。(女性40代会社員下田市)
- ・ 人口減少で福祉サービス・災害時における担い手がなくなる不安感に 【女性65～74歳無職西伊豆町】
- ・ 人口減により、それらに関することの維持が難しくなる。 【男性65～74歳専業主婦（夫）下田市】

災害への不安・対策について

- ・ 防災・災害対応が整っていれば安心できる。 【女性10代学生西伊豆町】
- ・ 大災害が起きたら孤立する。生活物資に困る、近隣市からの支援に時間がかかる、医療体制に不安。 【女性30代公務員下田市】
- ・ 人口減になると、被害を把握するまでに時間もかかるだろうし孤立する世帯が多いのではないかと不安です。 【女性30代会社員下田市】
- ・ 子供が安心して暮らせる地域である必要がある。 【男性30代公務員下田市】
- ・ 縦貫道を整備を10年としているが半分まで減らす勢いでやらなければ今後の経済面、災害面で追いつかない。 【男性30代公務員下田市】
- ・ 災害時の対応が後回しになりそう。津波への対応策が無さすぎる。 【男性40代会社員下田市】

※その他、人口増減の要因、生活する上で必要、安全に暮らすためなどの意見あり

生活インフラ(意見の抜粋)

- ・安全に住めるための治安や生活インフラは必要と思ったから
【女性10代学生下田市】
- ・生活インフラが整っていないと長く住みたい、子供と一緒に住みたいと思えない。子供の医療、教育体制が出来ていないと住む意味が無くなってしまう。
【女性20代会社員東伊豆町】
- ・過疎地のインフラ整備にコストが掛かるため
【女性40代公務員松崎町】
- ・生活インフラは最低限やらないと移住者の受け入れは難しい。
【男性40代会社員西伊豆町】
- ・公共交通やインフラ(通信体制含む)が整備されていれば他のサービスもカバー(窓口業務縮小、医療機関不足、学校統合)できるものもあるため
【女性50代会社員下田市】

行政サービス(意見の抜粋)

- ・何かあった際の窓口は必要な為
【女性40代自営業下田市】
- ・現代の日本人が一定の水準で生きていく最低ラインとして選択
【男性40代公務員下田市】
- ・行政サービスがきちんとしないと人が外に流れるだけだから
【女性40パート・アルバイト下田市】

地域コミュニティの不足(意見の抜粋)

- ・生活に最も根本的なもの、医療、教育とコミュニティがあれば、その他のインフラ(上下水道、ごみ収集等)がなくなっても不便程度なものです。医療、教育とコミュニティがなくなったら、住む事は基本不可能になります。行政がかなり縮んだ方がいいと思っています。
【男性20代会社員下田市】
- ・地域コミュニティ不足で移住者が住み心地が悪く、地元に戻ってしまった事例をたくさん見ている。
【女性30代自営業下田市】
- ・コミュニティ充実が防災・福祉・環境の原点
【男性65~74歳市議会議員下田市】

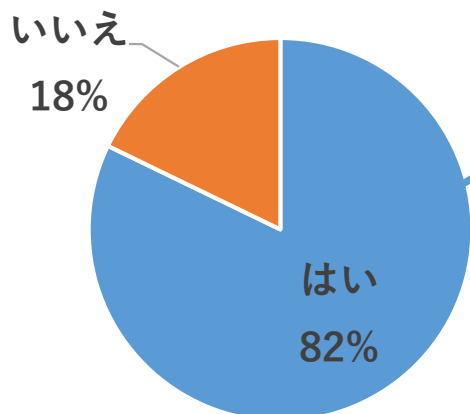
治安(意見の抜粋)

- ・観光客や外国人が多く子供を歩かせていて大丈夫かと思う事がある
【女性40代会社員河津町】
- ・身近でも犯罪に巻き込まれている方が居るので
【男性40代会社員西伊豆町】
- ・一部の移住者では有るが、地元ルールを守れず、騒音トラブル、迷惑行為が多い。他人の土地(主に山)に入り荒らす行為が多い。
【女性50代パート・アルバイト西伊豆町】

4-1 災害発生時に、直ちに避難行動をとることができますか

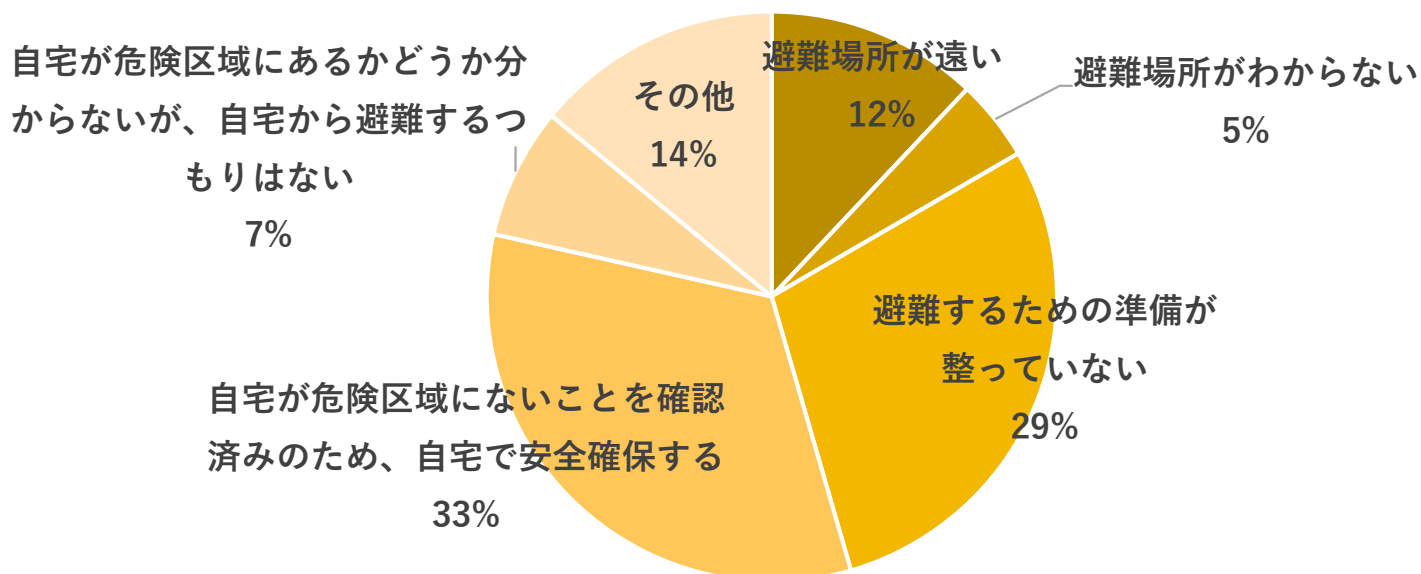
概要

★直ちに避難行動をとれると回答した回答者の市町別割合としては、河津町、松崎町、西伊豆町が若干高い。避難しない理由は、自宅が危険区域にない場合を除いて、避難する準備が整っていないが29%となり最多。南伊豆町が若干だが高い。



市町別	「はい」件数	割合
下田市	442	81%
東伊豆町	127	78%
河津町	101	88%
南伊豆町	191	81%
松崎町	166	87%
西伊豆町	160	86%

4-2 直ちに避難しない理由があれば教えてください



「避難するための準備が整っていない」市町別件数

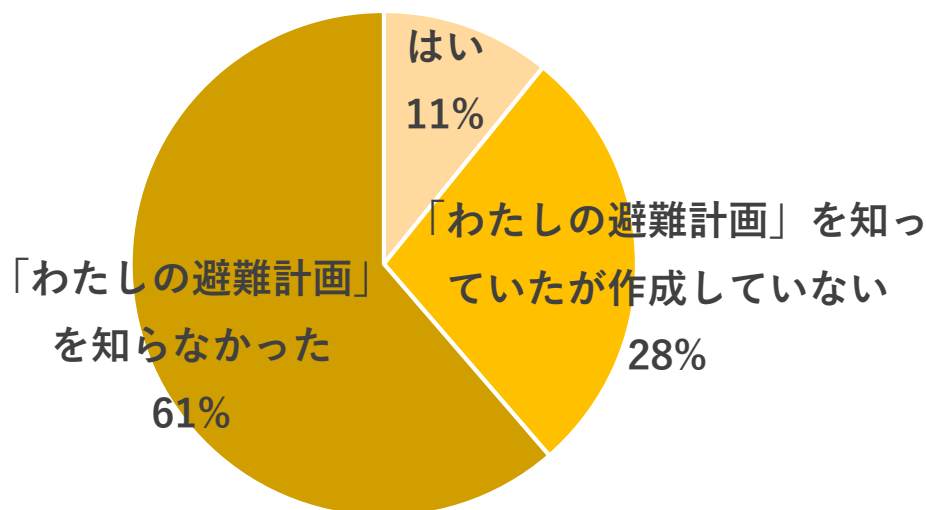
市町別件数	件数	割合
下田市	40	7%
東伊豆町	12	7%
河津町	7	6%
南伊豆町	26	11%
松崎町	13	7%
西伊豆町	14	7%

4-3 「わたしの避難計画」を作成していますか

概要

★実際に避難計画を作成した割合としては松崎町が低い。

「私の避難計画」について、各市町において「知らない」が6割を超えるのは下田市、河津町、松崎町。年齢別では10代の認知度が最も低い。年代が上がるにつれて認知され、作成される傾向がある。



市町別「はい」の件数		
市町	件数	市町別割合
下田市	60	11%
東伊豆町	18	11%
河津町	12	10%
南伊豆町	27	11%
松崎町	9	5%
西伊豆町	29	16%

年齢別「はい」の件数		
年齢	件数	年齢別割合
10代	35	8%
20代	2	5%
30代	10	6%
40代	43	12%
50代	33	14%
60～64歳	12	18%
65～74歳	10	14%
75歳以上	12	44%

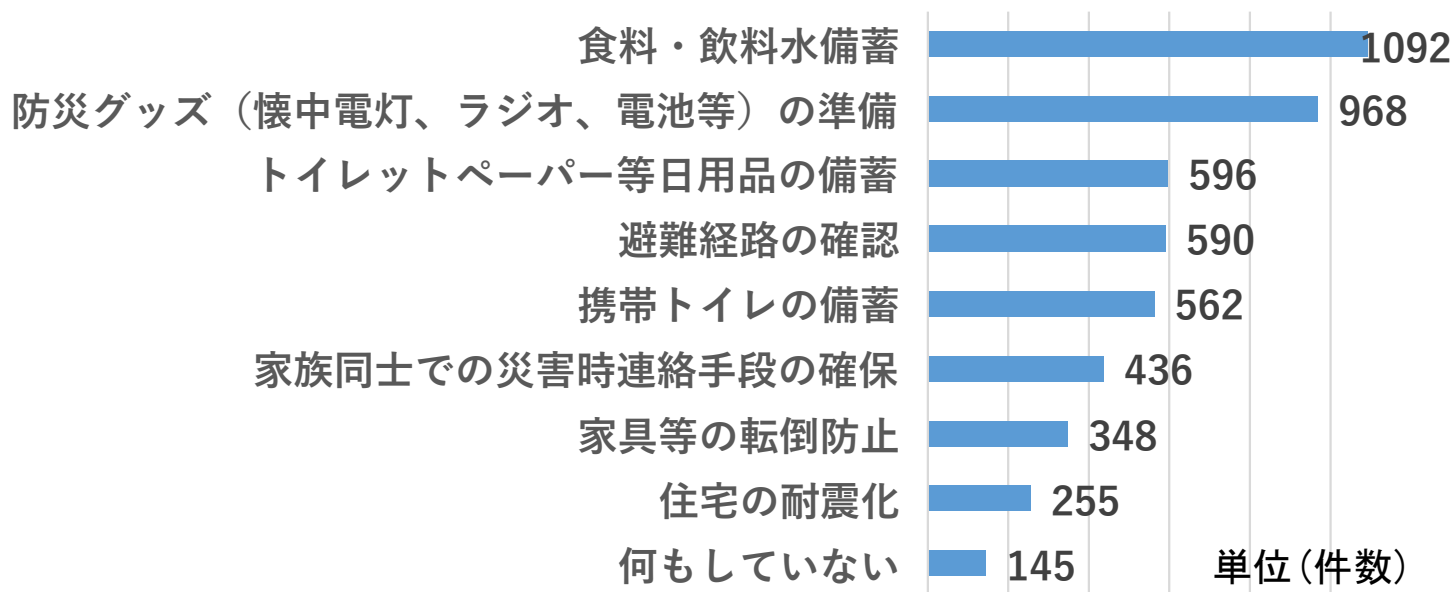
「わたしの避難計画」を知らなかった		
市町	件数	市町別割合
下田市	355	65%
東伊豆町	96	59%
河津町	74	64%
南伊豆町	132	56%
松崎町	129	68%
西伊豆町	98	52%

「わたしの避難計画」を知らなかった		
年齢	件数	年齢別割合
10代	346	76%
20代	27	64%
30代	104	62%
40代	212	58%
50代	132	57%
60～64歳	28	43%
65～74歳	24	32%
75歳以上	5	19%

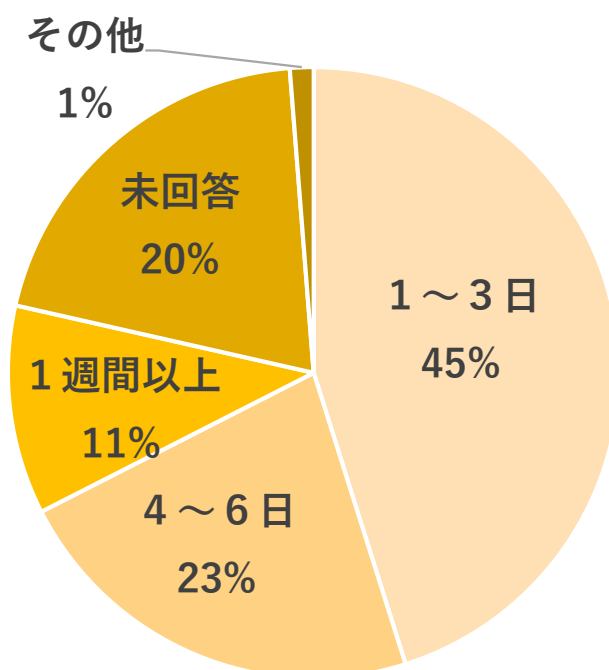
4-4 自宅で災害に備えるため、以下の準備をしていますか (複数回答可)

概要

- ★「食料・飲料水備蓄」「防災グッズ（懐中電灯等）」の準備は多数。災害対策の基本項目として、全体的に意識が高い。
- ★「日用品」「避難経路の確認」「携帯トイレ」などの準備は4割程度が準備。
- ★備蓄の想定期間は1～3日が45%、1週間以上が11%と長期的な準備をしている人は少ない、孤立が予想される賀茂地域では、長期的な備蓄の啓発が必要と思われる。



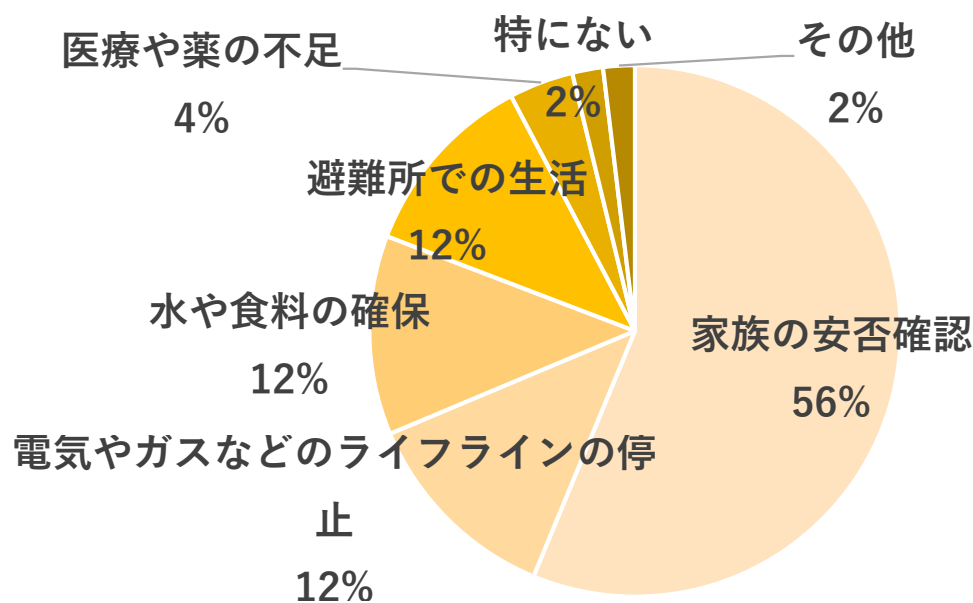
4-5 備蓄している方にお聞きします、 どの程度の期間を想定して備蓄していますか



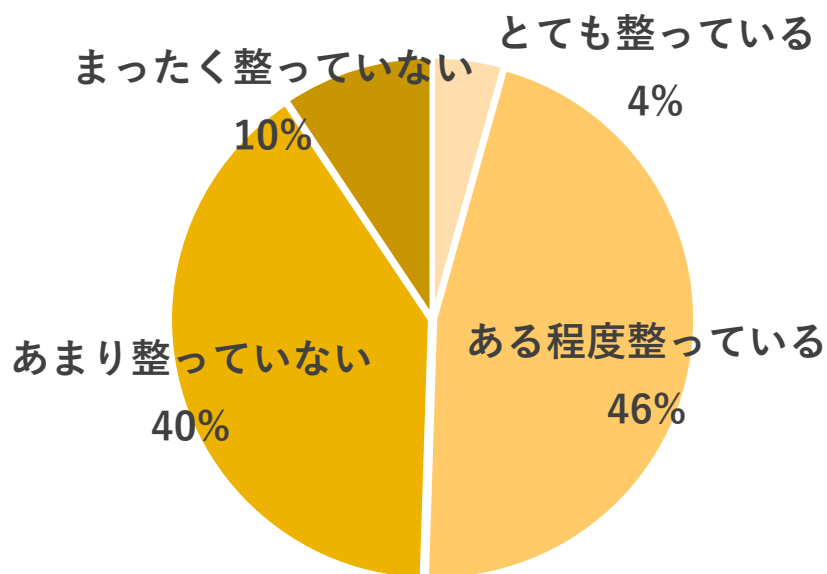
4-6 災害発生後に特に不安に感じることは何ですか

概要

- ★災害発生後に特に不安に感じることとしては、「**家族の安否確認**」が半数を超える。行政としても災害時の家族同士の連絡手段の確保の呼びかけ、被災者へのスムーズな情報提供するための体制の準備が必要と思われる。
- ★助け合おう環境が整っているかについては「**整っている**」・「**整っていない**」は全体で半々の結果となった。河津町・松崎町居住者は6割程度が「**整っている**」と回答。



4-7 災害時に近隣住民や地域の人と助け合う環境が整っていると感じますか



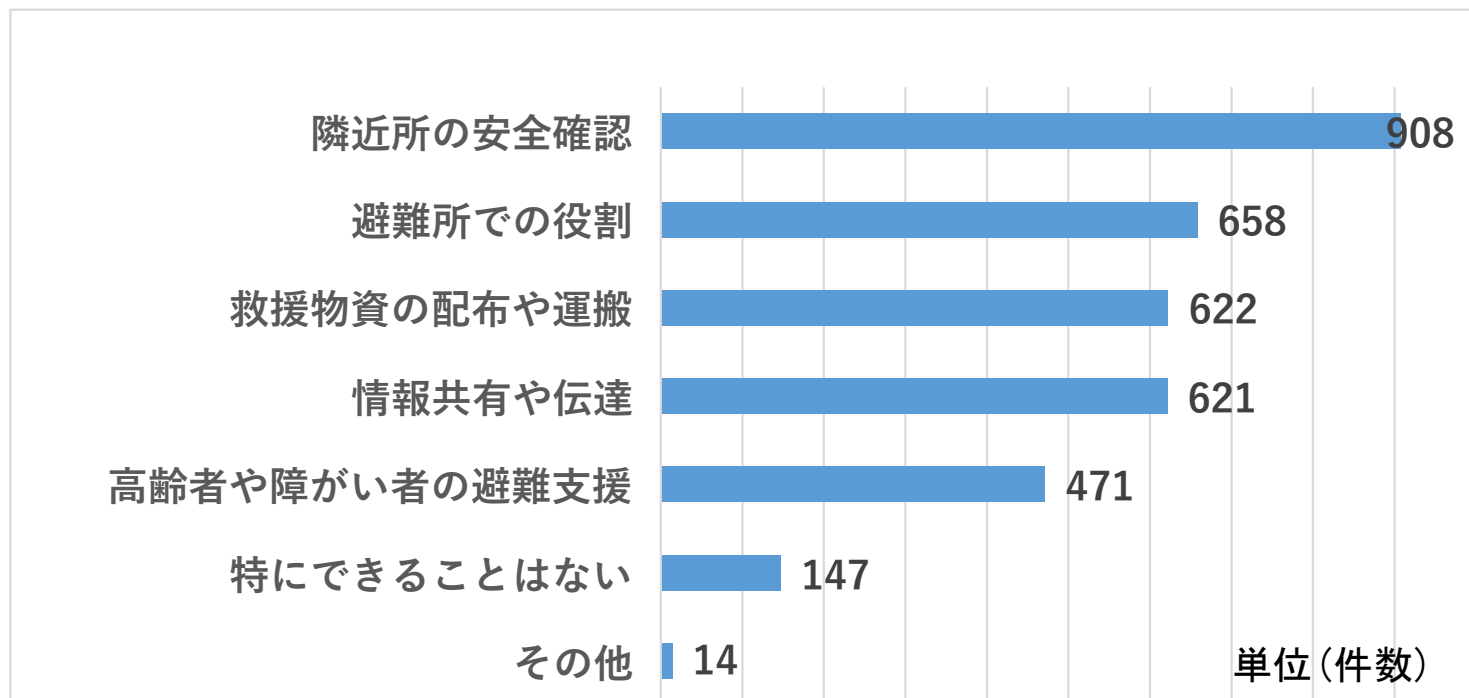
市町別「整っている」件数		
市町	件数	割合
下田市	251	46%
東伊豆町	77	47%
河津町	71	62%
南伊豆町	121	51%
松崎町	109	57%
西伊豆町	99	53%

4-8 災害時に、以下のような支援や協力を行うことが可能ですか（複数回答可）

概要

★「隣近所の安全確認」の回答が最も多く、30代以上から各年齢6割以上。「高齢者や障がい者の避難支援」は各年齢で半数を下回った。年齢が上がるにつれ、可能な支援・協力が増えていく傾向。10代～30代の若い世代については「隣近所の安全確認」以外は半数を下回る。

全体件数



年齢別件数

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～74歳	75歳以上
隣近所の安全確認	55%	45%	60%	71%	67%	74%	66%	63%
避難所での役割（炊き出し、受付など）	38%	48%	42%	50%	52%	54%	61%	26%
救援物資の配布や運搬	41%	48%	35%	42%	50%	51%	50%	48%
情報共有や伝達	34%	40%	45%	47%	47%	58%	49%	52%
高齢者や障がい者の避難支援	31%	33%	27%	32%	39%	43%	41%	19%
特にできることはない	11%	7%	16%	8%	11%	11%	7%	15%

4-9 防災及び災害対応に関して、行政や地域コミュニティにどのようなサポートを期待しますか(自由記述)

概要

★「避難所の生活環境の整備」「備蓄・物資の確保」についての意見が比較的多い。次いで、被災時の誘導や、安否確認などの情報提供を求める意見が多い。また、具体的な意見ではないが、災害時の行政の対応や支援について「迅速な」対応を求める意見が一定数あった。避難訓練の内容やハード面での具体的な提案や意見も見られた。

主な意見抜粋

避難所運営・生活環境整備など

- ・ もめ事なく待機できる環境の確保 【女性40代専業主婦西伊豆町】
- ・ 女性、子供、高齢者に配慮した避難所作り。 【女性20代会社員東伊豆町】
- ・ 怪我人、病人に対しての医療行為 【男性50代会社員西伊豆町】
- ・ 避難所での生活を安心して送るためのサポート（寝具の提供、健康管理、生活環境の整備など） 【女性50代パート・アルバイト南伊豆町】
- ・ 避難所での防犯対策、衛生環境 【女性50代パート・アルバイト下田市】
- ・ 井戸を掘る支援、自家発電手段など、あらかじめライフラインをオフグリッドで提供すること。有事が起きてからのことより起きても動じない基盤を市民に提供しておくこと。 【女性40代専業主婦下田市】
- ・ より早いライフライン（ガスや電気）の復旧 【女性10代学生下田市】
- ・ 暑さや寒さの対策 【回答しない10代学生河津町】
- ・ 車で避難するとき、渋滞などの緩和。または交通整理。 【女性20代パート・アルバイト下田市】

備蓄/物資の確保

- ・ 賀茂地区は陸の孤島になりやすい環境なので大規模な備蓄・燃料の確保等を期待する。 【男性60～64歳会社員下田市】
- ・ 十分な水 食料の備蓄 【男性40代会社員河津町】
- ・ 日用品や生活用品の確保 【女性40代パート・アルバイト南伊豆町】

情報提供・案内

- ・的確な情報、混乱がない誘導 【女性65～74歳会社役員南伊豆町】
- ・在校中の子供の安全確保と連絡 【女性40代パート・アルバイト松崎町】
- ・避難所への避難方法をしっかりアナウンスしてほしい（みんなが車で一斉に押しかけると混乱のもとになる） 【女性40代会社員下田市】
- ・避難場所等への被害、支援等の情報発出。 【男性75歳以上無職下田市】
- ・家族の安否確認をしてほしい 【女性10代学生河津町】
- ・行政には災害時の迅速な対応が出来るように県や国との現状の連携の仕方を市民に分かりやすく知らせてほしい。 【男性50代会社員下田市】
- ・外国人への案内 【男性30代自由業下田市】
- ・ドローンを活用した道路状況の把握と情報。 【男性65～74歳パート・アルバイト】

ソフト面での災害対策

- ・避難所運営マニュアルを作るだけでなく、それに基づいた訓練をきちんと地区に浸透させてほしい。 【女性40代自営業下田市】
- ・避難訓練で、実際に、高齢者、要支援者の支援も含めて行うこと。要支援者のマップを作ること。 【女性60～64歳専業主婦松崎町】
- ・ユニバーサルデザイン避難訓練をやってみたらどうか。 【女性30代パートアルバイト下田市】
- ・地域を含めた避難経路の確認、孤立集落になった際の対策 【女性30代パート・アルバイト下田市】
- ・オンラインでの防災講座、動画の配信などその市町に特化したもの。実際の防災訓練に参加することは難しいが、見ながら防災計画を立てたり、防災訓練で学んだことを復習したりしたい。 【女性20代公務員東伊豆町】
- ・災害時に、地域や職場などの身近なコミュニティでも自助共助できる意識形成や体制づくり。 【女性50代会社員下田市】
- ・災害ボランティアを迅速に受け入れる体制、受け入れに制限をもうけない。生活再建に向けて迅速に申請なども簡素化する。 【男性50代会社員南伊豆町】
- ・行政だけではなく、避難者もスタッフ側になれる体制作り 【女性40代会社員松崎町】
- ・大災害になった時は首都圏からの支援はかなり遅れると思うので、長期間自給自足できる体制をつくること 【男性40代会社員下田市】

ハード面での災害対策

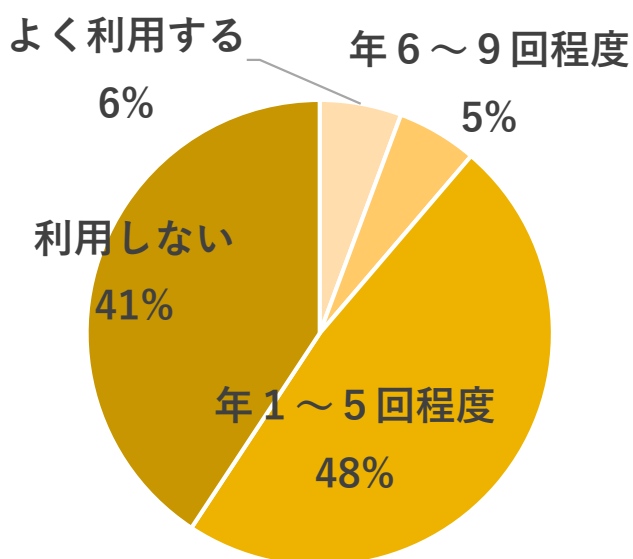
- ・避難所に指定されている建物（公民館）が古すぎて、倒壊が心配。補強や建て替えの補助をしてあげた方が良いのでは？【男性50代会社員河津町】
- ・廃校になった小学校の整備 常に使う事を考えて整備をしていくなど【女性40代自営業松崎町】
- ・津波避難場所、通路の整備。山の整備。【女性60～64歳自営業南伊豆町】
- ・土砂崩れからの回復や倒壊家屋や道路啓開の為の重機やオペレーターの確保【男性50代自営業南伊豆町】
- ・古い空き家の塀などの倒壊対策【男性10代学生河津町】
- ・災害時でも電話できるように公衆電話をある程度使えるようにして欲しいです。【女性10代学生松崎町】
- ・大浜地区に大きめの堤防を作ってほしい【男性10代学生西伊豆町】
- ・牛原山に登る道を整備して欲しい【女性10代学生松崎町】

5-1 市町役場の窓口をどの程度利用していますか 年／回数（訪問・電話・メール）

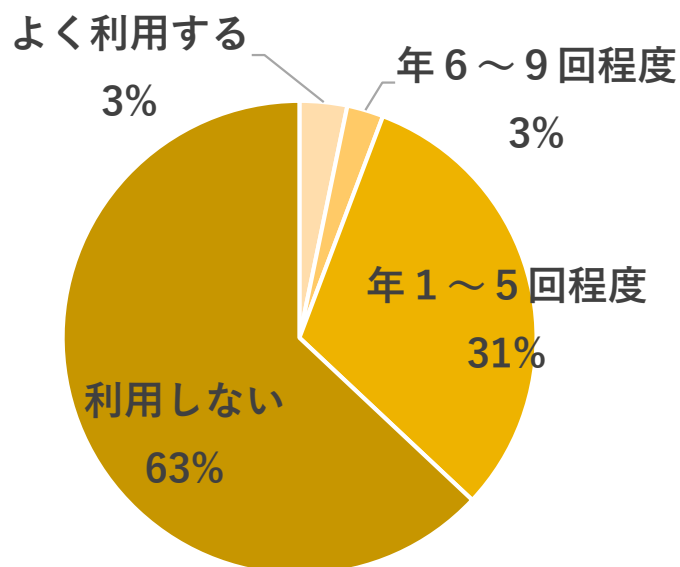
概要

- ★役場の窓口利用は、必要な時だけ（年1～5回程度）または「利用しない」の回答が多く、頻繁な利用者は限られている。役場窓口の主な利用手段は訪問・電話であり、メール利用は全市町・全世代でほとんど行われていない。
- ★一番多い訪問による利用では、市町別(20代以上)を見ると西伊豆町は「よく利用する」が相対的に高い。他市町より“窓口の頻繁利用層”が厚い傾向。年齢別では、30代以降は「年1～5回程度」が中心になり、40～60代で特に比率が高まる。65歳以上では「年6～9回程度」「よく利用する」といった頻度の高い層が相対的に増える。

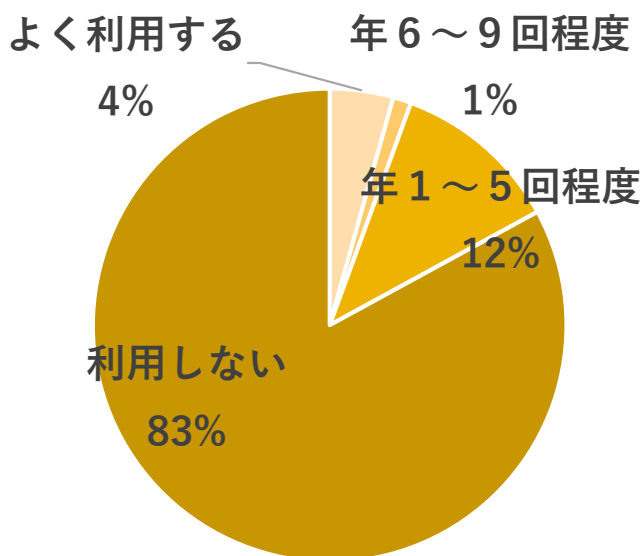
[訪問]



[電話]



[メール]



市町別利用者件数【訪問】

市町	1～5回程度	6～9回程度	よく利用する	利用しない
下田市	282(51.5%)	24(4.4%)	21(3.8%)	221(40.3%)
東伊豆町	82(50.3%)	5(3.1%)	10(6.1%)	66(40.5%)
河津町	39(33.9%)	9(7.8%)	6(5.2%)	61(53.0%)
南伊豆町	113(47.7%)	11(4.6%)	13(5.5%)	100(42.2%)
松崎町	96(50.3%)	18(9.4%)	11(5.8%)	66(34.6%)
西伊豆町	82(43.9%)	14(7.5%)	19(10.2%)	72(38.5%)

市町別利用者件数(20代以上)【訪問】

居住地	1～5回程度	6～9回程度	よく利用する	利用しない
下田市	267(68.8%)	24(5.9%)	20(4.9%)	95(23.4%)
東伊豆町	79(67.5%)	4(3.4%)	8(6.8%)	26(22.2%)
河津町	36(58.1%)	8(12.9%)	6(9.7%)	12(19.4%)
南伊豆町	93(63.3%)	10(6.8%)	13(8.8%)	31(21.1%)
松崎町	76(60.8%)	16(12.8%)	10(8.0%)	23(18.4%)
西伊豆町	66(56.4%)	14(12.0%)	19(15.4%)	19(16.2%)

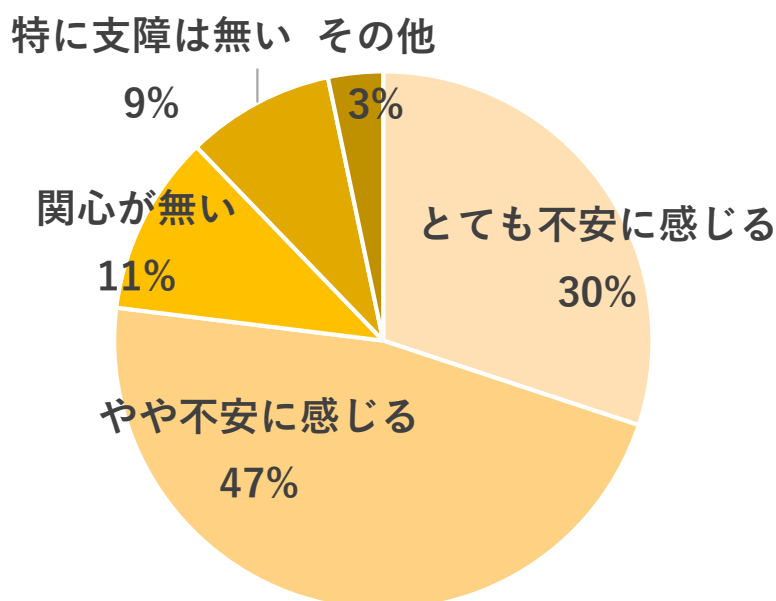
年齢別利用者件数【訪問】

年齢	1～5回程度	6～9回程度	よく利用する	利用しない
10代	77(16.9%)	5(1.1%)	5(1.1%)	369(80.9%)
20代	21(50.0%)	2(4.8%)	0(0.0%)	19(45.2%)
30代	90(53.6%)	10(6.0%)	17(10.1%)	51(30.4%)
40代	249(67.7%)	23(6.3%)	26(7.1%)	70(19.0%)
50代	152(65.2%)	22(9.4%)	17(7.3%)	42(18.0%)
60～64歳	44(67.7%)	3(4.6%)	6(9.2%)	12(18.5%)
65～74歳	48(64.9%)	13(17.6%)	8(10.8%)	5(6.8%)
75歳以上	14(51.9%)	3(11.1%)	3(11.1%)	7(25.9%)

5-2 人口減少に伴う行政職員不足により、今後の行政サービスの存続が懸念されます、これについてどう感じますか

概要

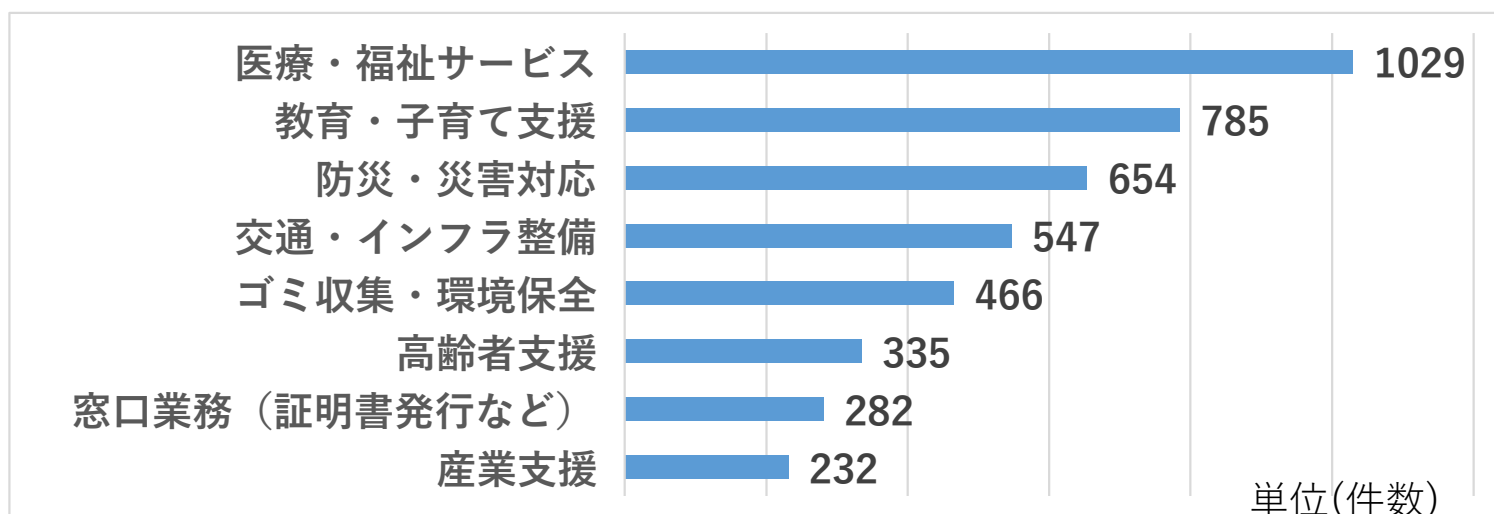
★今後の行政サービスの存続については全体の約8割近くが不安を感じている。



5-3 職員数が減少しても、特に優先してほしい行政サービスは何ですか（上位3つまで選択）

概要

★「医療・福祉サービス」が最多。「教育・子育て支援」は10代の学生、30代・40代の子育て世代で特に多く回答されており、「防災・災害対応」は全世代で一定数回答されている。「高齢者支援」は高齢層で多く回答された。



市町別優先してほしい行政サービス件数

単位(件数)

市町	下田市	南伊豆町	東伊豆町	河津町	松崎町	西伊豆町
医療・福祉サービス	①413	①157	①121	①83	①129	①122
教育・子育て支援	②307	②125	②86	②66	②114	②86
防災・災害対応	③249	③105	③79	③58	③83	③77
交通・インフラ整備	214	102	54	37	63	72
ゴミ収集・環境保全	166	77	53	39	62	66
高齢者支援	104	60	37	25	48	60
窓口業務	89	48	37	19	45	41
産業支援	95	33	20	18	29	33

年齢別優先してほしい行政サービス件数

単位(件数)

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60～ 64歳	65～ 74歳	75歳 以上
医療・福祉サービス	①307	②26	①122	①269	①175	①50	①51	②17
教育・子育て支援	②273	③21	②118	②243	79	15	18	4
防災・災害対応	③193	①27	③82	③168	③97	③35	③33	8
交通・インフラ整備	186	20	58	120	89	22	29	10
ゴミ収集・環境保全	105	14	38	124	②106	24	②35	③11
高齢者支援	111	3	18	60	63	②28	28	①20
窓口業務	91	6	29	70	51	11	14	6
産業支援	89	8	32	43	35	6	11	3

【注目】

優先してほしい課題(3-1)×優先してほしい行政サービス(5-3)

概要

★「3-1 人口減少に伴い、様々な分野での課題が推測されます。次のうち優先して解決すべきと考えるものはどれですか」

「5-3 職員数が減少しても、特に優先してほしい行政サービスは何ですか」の回答を元に、3-1で「何が課題か」を挙げた人が、5-3で「何を優先してほしいか」をどう選ぶか確認。

優先してほしい課題(3-1)	優先してほしい行政サービス(5-3)
医療・福祉サービス	医療・福祉サービス
教育体制	教育・子育て支援
防災・災害対応	防災・災害対応
公共交通機関	交通・インフラ整備
生活インフラ (上下水道・ごみ収集など)	ゴミ収集・環境保全
行政サービス維持（窓口対応など）	窓口業務（証明書発行など）

★(全体)

医療・福祉を課題視 → 5-3でも医療・福祉を選ぶ：76.9% (934/1215)

教育体制を課題視 → 5-3でも教育・子育て支援を選ぶ：75.6% (489/647)

防災を課題視 → 5-3でも防災を選ぶ：63.9% (398/623)

★(年齢別)

医療・福祉は全年代で一貫して高め、**教育**は高齢層で低下、**生活インフラ**は中高年ほど上がる傾向。

★(市町別)

- ・ **医療・福祉／教育**はどの市町でも一致率が高く、課題認識がそのまま「優先して残してほしいサービス」に直結しやすい領域。
- ・ **交通**は一致率が中位で、課題認識はあっても「職員減少下で何を優先維持するか」では他分野に譲る人が一定数いる。
- ・ **生活インフラ**は市町差がやや出ており、特に西伊豆町の一致率が高めで、生活維持（ごみ等）を“課題→優先サービス”として結びつける傾向。
- ・ **窓口維持**は一致率が低めでばらつきもあり、「課題としては挙げるが、優先サービスとしては別領域を選ぶ」人が出やすい領域

※一致率 = 3-1で該当課題を選んだ人のうち、5-3でも対応サービスを選んだ人/3-1該当課題を選んだ人×100

全体「一致率」

課題\優先サービス	医療・福祉サービス	教育・子育て支援	防災・災害対応	交通・インフラ整備	ゴミ収集・環境保全	窓口業務
医療・福祉サービス	76.9%	53.7%	45.6%	34.3%	30.5%	19.3%
教育体制	70.9%	75.6%	40.6%	31.5%	28.9%	16.4%
防災・災害対応	73.0%	50.7%	63.9%	30.3%	27.3%	19.4%
公共交通機関	68.3%	49.7%	40.2%	50.1%	28.7%	20.4%
生活インフラ	66.6%	47.6%	41.5%	41.1%	44.5%	18.3%
行政サービス維持	64.9%	46.6%	40.9%	38.0%	34.6%	30.8%

市町別「一致率」

3-1課題\市町	下田市	南伊豆町	東伊豆町	河津町	松崎町	西伊豆町
医療・福祉サービス	80.8%	73.2%	79.1%	75.3%	73.8%	71.9%
教育体制	75.8%	76.2%	74.1%	79.6%	79.6%	69.9%
防災・災害対応	64.6%	63.5%	72.1%	63.0%	62.4%	57.8%
公共交通機関	53.9%	54.0%	45.5%	40.0%	47.7%	45.9%
生活インフラ	43.3%	38.8%	39.4%	5.7%	48.1%	58.2%
行政サービス維持	22.4%	40.0%	42.3%	21.4%	32.3%	34.8%

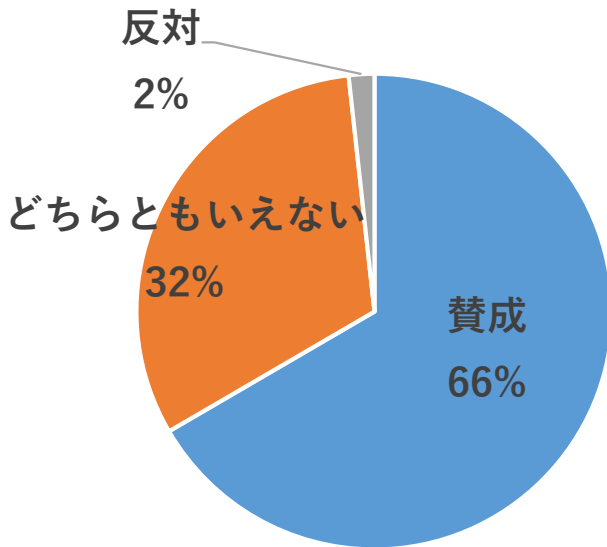
年齢別「一致率」

3-1課題\年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60~64歳	65~74歳	75歳以上
医療・福祉サービス	74.8%	72.4%	77.9%	78.0%	80.7%	79.4%	74.6%	65.4%
教育体制	81.1%	70.6%	82.2%	80.3%	61.9%	50.0%	58.6%	20.0%
防災・災害対応	64.2%	78.9%	65.4%	64.6%	60.9%	67.7%	60.7%	42.9%
公共交通機関	52.3%	63.6%	49.3%	46.0%	49.1%	46.2%	48.0%	50.0%
生活インフラ	27.3%	50.0%	41.9%	49.0%	62.6%	55.6%	56.8%	41.7%
行政サービス維持	32.1%	28.6%	21.7%	34.6%	34.3%	12.5%	31.2%	33.3%

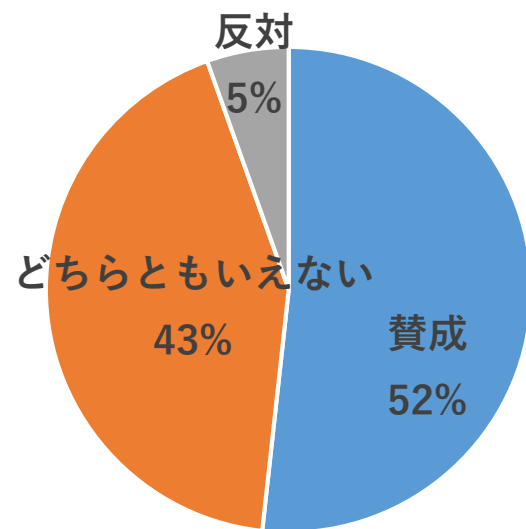
5-4 以下のような行政サービスの効率化案についてどう思いますか

- 概要
- ★「他市町との行政連携や広域化」・「デジタル化」については全体的に賛成の意見が6割以上と多い。「他市町との行政連携や広域化」は50歳～75歳以上では7割が賛成となり、若い世代と比較して賛成の割合が高い。
 - ★「行政サービスの一部縮小や廃止」については、賛成が3割。年齢が上がるほど賛成割合が低下している。反対が他案と比較して多く、年齢別では60歳以上の反対の割合が高い傾向にある。社会的な安全や福祉サービスへの依存・期待が大きい世代の抵抗感がやや強い結果となった。

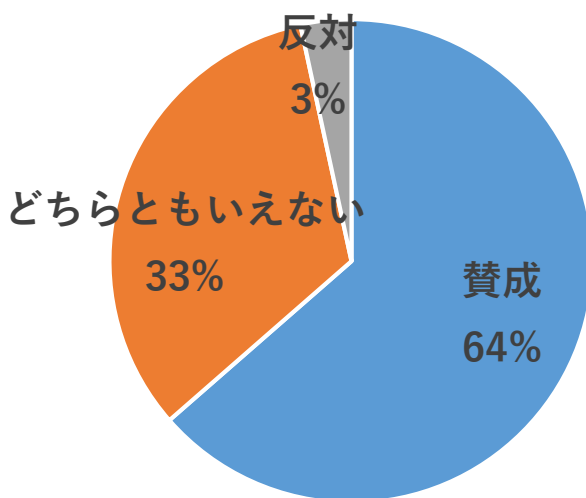
[他市町村との行政連携や広域化]



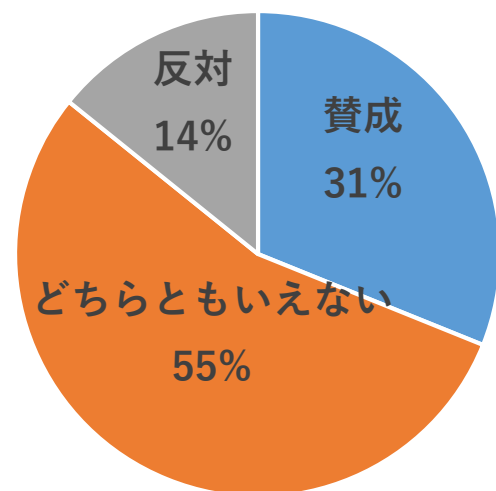
[民間企業や住民への業務委託]



[デジタル化]



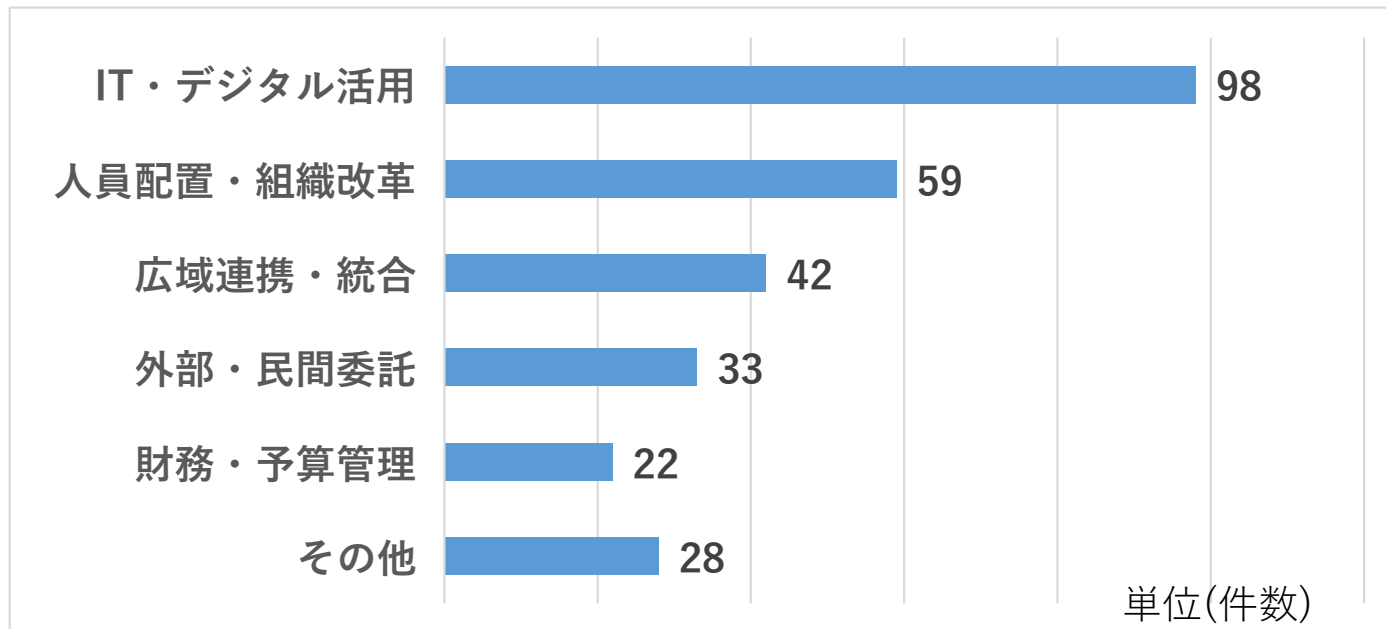
[行政サービスの一部縮小や廃止]



5-5 行政の効率化について、具体的なアイデアや意見があれば教えてください(自由記述)

概要

★行政の効率化案への意見としては「デジタル化」「DX」「AI活用」などITによる効率化案が多数。「職員の専門性を活かす人事制度」「異動によるノウハウ断絶の回避」に意識が向いている。「合併」「リモート・広域行政」など体制改革や効率化アイデアも提案されている。



5-5 行政の効率化について、具体的なアイデアや意見があれば教えてください(自由記述)

主な意見抜粋

IT・デジタル活用

- ・ マイナンバーカードを活用し住民票などの証明はすべて機械で行う。現在紙で行っている申請はタブレットで簡素化する。全体的にデジタル化を進める。 【男子30代公務員南伊豆町】
- ・ 基本的にはデジタル化、AIの活用及び、チャットロボット等活用をしていく。窓口に行かなくても、オンラインで申請等をできるようにする。 【男性30代会社員南伊豆町】
- ・ 〇〇課ごと問い合わせ窓口をたくさん作るより、一本化してAI対応、各窓口で自動で振り分けられるようにしたら、職員の対応時間も減るのでは。 【男性30代会社役員下田市】
- ・ 申請等事前予約やネット対応等の窓口業務簡略化 【女性30代会社員南伊豆町】
- ・ 紙媒体での連絡が多い、と感じている。閲覧板も紙媒体から電子化でいいと思う。携帯電話で役場と繋がるように今以上に体制を整えていくことを望む。 【女性65～74歳専業主婦南伊豆町】
- ・ 紙面・ハンコを無くしてインターネット、オンラインを活用する。 【女性40代専業主婦南伊豆町】
- ・ 紙面でのやり取りを減らし、Slackなどのシステムを通じてオンラインで進捗を管理する。 【女性40代会社員西伊豆町】
- ・ テレビ電話やリモートの活用 【男性60～64歳パート・アルバイト西伊豆町】
- ・ 組織内での情報共有がされておらず対応不備が多い印象、応対履歴などデジタルで管理し伝達の工数を少なくする、担当する職員によるオペレーションのばらつきをなくしてほしい。 【女性30代公務員松崎町】
- ・ 長期間的ですが、高齢な方向けに地域公民館などで定期的に ネット活用の講習会などとりおこない。窓口対応を減らす。 【女性40代自営業下田市】
- ・ 行政業務のデジタル化は基本賛成だが我々より上の世代だとこれ以上複雑化すると対応出来なくなるのでは？お年寄りでも簡単に理解利用出来るプラットフォームを作って各家庭にタッチパネルで利用出来るタブレットなり配布出来れば可能な未来かと。 【男性50代会社員西伊豆町】
- ・ 子育て世代はスマホやパソコンが使える人が多いと思うので、保育園や学童の入所申し込みなどの申請はマイナポータル等のオンラインで出来たらいいと思う。 【女性30代会社員下田市】
- ・ 町のホームページに各手続きが一覧になっていて、手続き名をクリックすれば必要書類や手続き方法が見てわかるようになっているページを作ってほしい。学校の支援学級に申し込む時に意見書か診断書を求められるが、町で決まった形式の物を用意してほしい。 【女性40代パート・アルバイト西伊豆町】

人員配置・組織改革

- ・職員について、担当課を3年程度で異動させていますが、その度、職員に蓄積されたノウハウ、人脈が途切れる事は効率化の逆に繋がっていると感じる。実績を残した職員については、エキスパートとして活躍できるよう、人事についても考慮してもらいたい。
【男性60～64歳会社役員下田市】
- ・適材適所で、仕事内容が向いていて、監査で不正がないなら、激しい異動は行わず、詳しい職員を育てていってほしい。
【女性40代パート・アルバイト松崎町】
- ・2,3年で異動ばかりでは、責任感や意欲を持っている人ほど、ひとつのことに熱心に取り組めないのでは？
【女性50代会社員下田市】
- ・過疎地域にて、職員1人当たりの仕事量の増加及び、仕事内容の多様化が進んでいくので、それに対応できる人材を育てる。年功序列の廃止。働き手の能力で給与の変更。現代社会にあった働き方をする。
【男性30代会社員南伊豆町】
- ・年功序列を廃止し、実力・成果主義の仕組みを構築し運用できる体制を首長自ら率先して提案すべき
【男性50代自営業下田市】
- ・オンライン申請と地域おこし協力隊などの外から人が働きにくる制度
【女性20代自由業南伊豆町】
- ・民間へ移管出来るものは待たなしで行う強いリーダーが必要。
【男性50代無職南伊豆町】
- ・優秀な外部の人を入れ競争原理を働かせる。優秀な管理職員が必要
【男性50代自営業河津町】
- ・DXの推進が必要で、その人材の育成も必要です。
【女性60～64歳専業主婦松崎町】
- ・職員の意識改革
【男性50代自営業河津町】
- ・正社員にしか出来ない仕事のみを正社員で行う。
【女性40代パート・アルバイト下田市】
- ・現場職員さんが1番問題を捉えられるので、積極的に意見を吸い上げて下さい。
【男性75歳以上無職東伊豆町】
- ・年関係なく採用する
【女性60～64歳パート・アルバイト西伊豆町】
- ・効率化もそうですが、まずは人を増やす施策が必要では。
【賛成40代会社員下田市】
- ・退職年齢が上がった事で前役職者ばかり増えて、一般職が少ない事は兵隊がいなく同じ事、高給者が増えれば財政圧迫は必然。やはり若者をコンスタントに採用出来ない行政は無能な存在だと思う
【男性65～74歳無職東伊豆町】
- ・人口に対しての職員数を他の自治体と比較して、相違があるならばどのように運営しているかを他から学び改善していかなければいけない。
【男性50代自営業下田市】

財務・予算管理(コスト削減など)

- ・課題とその優先度の明確化による施策の選択と集中 【男性60～64歳無職南伊豆町】
- ・観光地の再整備や観光税の導入、ふるさと納税の見直しにより、市税の増加を図り、財源をもとにデジタル化を加速させる。 【男性20代公務員下田市】
- ・デジタル化の推進と市町村合併。効率化の話とはズレるが、ふるさと納税の拡充と入湯税の増額。それぞれの自治体がかみ合わせ努力をしていくことが必要。 【男性40代会社役員下田市】
- ・なるべく地元の人を採用して、交通費とか住宅手当など最低限になる様に減らしていけば良いと思う。後人員削減出来るところは削減して貰いたい。 【女性50代会社員下田市】
- ・地域縮小。現在、白浜や須崎、稲梓など中心地から離れた住民をある程度の地域にまとめていくことで水道の管理やゴミ収集などコスト削減ができる。 【女性40代会社員下田市】
- ・住民の生活拠点を一か所にすることによりインフラ整備や行政サービスのスリム化が図られ、また住民のコミュニケーションの向上につながると思う。一か所に集めることでメリットの方が充分あると思います。 【男性65～74歳無職西伊豆町】
- ・職員や議員の人員、報酬削減 【男性65～74歳無職下田市】
- ・ライフラインでない事を即座に中止。 【男性20代会社員下田市】
- ・私たち市民の負担をもっと増やしても良いし、観光で稼いでいる人たちはもっとがんばってほしい。そうして小さな政府を目指すしかないと思う。 【男性60～64歳公務員下田市】
- ・賀茂県域にある基幹病院の合併による機能向上。医療と人の分散を避け集約化することで設備投資費削減、サービス向上。医療の質向上を図る。絶対に必要 【男性40代会社員下田市】
- ・これからの時代背景に合わせてあまり必要性の低いものは減らしていくことも一つかなと思う。 【女性40代パート・アルバイト東伊豆町】

外部・民間の活用

- ・ 窓口を郵便局に委託。コンビニ対応の拡充。 【男性40代公務員南伊豆町】
- ・ 業務委託をするならば、委託することで費用が抑えられるか、委託した分で他の業務が圧倒的に効率が良くなるかなど、合理性をもってして欲しい 【男性20代公務員南伊豆町】
- ・ 賀茂郡にコンサルティング担当などを招聘して熱海市のように再建を考える必要がある。 市町が新しいことを進めなければ今後の財政難には立ち向かえない。 【男性30代公務員下田市】
- ・ 委託出来る内容であれば地域住民を頼っても良い 【女性50代パート・アルバイト松崎町】
- ・ 県内の民間企業との人事交流 【男性30代自由業下田市】
- ・ 民間の情報共有方法を学ぶことなど。 【男性50代会社員下田市】
- ・ 現在の負担になっている業務の中で必ずしも行政のみで行わなければいけないものは限られてくるはず。行政としての方針、指針など重要部分に関わるもの。それ以外は外部に委託し町民がその分の支払いを行いサービスを受ける形にシフトするのが一番現実的。 それに伴い各々の市町で本当に必要な業務がインフラのように残るはず。 【男性30代会社員西伊豆町】

広域化等

- ・ 賀茂地区で行政を一つにして効率化を進める 【女性40代会社員下田市】
- ・ 市町は個別に継続したまま 賀茂地域で組合設立し行政を運営 【男性50代自営業南伊豆町】
- ・ 地区や民間への委託義務の見直し。地区負担になっている業務の統合。行政の業務範囲の再定義。 近隣市町との共同運営体制の構築。 【男性60～64歳会社員南伊豆町】
- ・ 具体的に行政のどこが効率化できるのかが不明なためよくわからないすでに人員不足で行政に不具合が生じているように感じるので、効率化を目指すなら(何をもって効率化と言っているかわからないが)そこに どれだけの人員を割けるのか不安 【男性40代会社員下田市】
- ・ 平成の大合併から20年近く経ちますが、また市町の合併について真剣に考える時だと思います。今やらなければ町が維持できなくなる。それぞれのプライドは捨てて 賀茂地区全体で若者の流出や少子化について真剣に対策を打ち出して下さい。 町の名前より市町の未来の方がはるかに重要です。お願いします。 【女性50代公務員松崎町】
- ・ 賀茂地域の市町の合併が最優先。 賀茂地域の6市町は行政サービスを行える最低人員がすでに不足しています。 【男性40代公務員下田市】
- ・ 他市町村との連携については、正直、よその市町村も人口減少で逼迫している中で、 お互いに助け合えるのか? という疑問が残る。 【女性30代パート・アルバイト下田市】
- ・ 防災は県と一緒にしても良いのでは。 建設、上下水道など、民間や県と共に行える部分は組織の見直しをしてもよいのではないかと。 【男性40代公務員下田市】
- ・ 人口が少ない為、 行政や学校、商業施設などを統合していく。 【女性40代会社員下田市】
- ・ 小学校を統合する 【女性10代学生下田市】
- ・ 下田市民文化会館や敷根運動公園プールは下田市だけではなく賀茂郡全体で利用している施設なので、 広域連携し維持して欲しい。 清掃センターや斎場なども統合し広域連携し財政負担を減らしていく。 【女性50代会社員下田市】
- ・ 賀茂圏域にある 基幹病院の合併による機能向上。 医療と人の分散を避け集約化することで設備投資費削減、サービス向上。医療の質向上を図る。絶対に必要。 【男性40代会社員下田市】
- ・ 業務集約は先に集約ありきになりがちなので、市民のパターン（例えば自力移動が困難な人など）を想定し、 住民が許容できるサービスの最低線を把握した上で、それを提供できる最低限の体制として構築してほしい。 【女性50代公務員下田市】

6 持続可能な地域づくりに向けて、取り組んでいること、 取り組みたいと考えていることはありますか（複数回答可）

概要

★持続可能な地域づくりに向けての取組としては、災害に対する自助・共助への意識が強く、高齢化社会に向けて地域での高齢者支援などに協力する意向が見て取れる。

